

令和4年度 第1回 寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 配布資料一覧

○会議次第

- 資料1 寒川町公共施設再編計画進行管理委員会委員名簿
- 資料2 令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会の配付資料・会議録
- 資料3 これからの公共施設マネジメント
～公民連携も含めた手法への取り組みと施設整備のためのビジョンづくり～
- 資料4 これからの公共施設マネジメントについての進捗報告
～にぎわい交流創出ゾーンのビジョンづくり～

令和4年度 第1回 公共施設再編計画進行管理委員会 会議次第

日時：令和4年11月11日（金）

9時30分から

場所：町民センター 講義室

1. 開会

2. 委員自己紹介

3. 議題

(1) 議事録承認委員の指名

(2) 前回の書面会議内容の振り返りについて

(3) これからの公共施設マネジメントについて

4. その他

5. 閉会

○寒川町公共施設再編計画進行管理委員会委員名簿

(敬称略)

氏名	委員会設置要綱第2条第2項による区分
山崎 俊裕	学識経験を有する者（東海大学建築都市学部建築学科教授）
茅野 英一	学識経験を有する者（元帝京大学経済学部経済学科教授）
水田 敏弘	学識経験を有する者（一級建築士）
森 一光	寒川町自治会長連絡協議会から推薦を受けた者
高橋 伸隆	社会福祉法人寒川町社会福祉協議会から推薦を受けた者
徳澤 順子	寒川町教育委員会から推薦を受けた者
森 和彦	寒川町教育委員会から推薦を受けた者

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>公共施設再編計画の再編計画において、令和3年度実施予定としていたものの②南部地域の新たな消防拠点整備（＝土地取得）が未着手とのことですが、消防広域化は10年間のうちに整備予定とのことでしたが、今回の南部地域分署の遅れによって北部地域出張所の新設に影響はないのでしょうか。消防広域化が遅れるのでしょうか。 また、茅ヶ崎市域の整備も予定より遅れているのでしょうか。</p>	<p>茅ヶ崎市との消防広域化は、令和4年4月1日より実施となります。これは、寒川町内の消防拠点が2か所完成することを待たずに実行します。南部地域分署、北部地域出張所ともに、現時点では令和4年から10年以内での整備を目指すこととしています。これは、国による財源の補助期間が、広域化後10年以内とされているためです。</p>
<p>南部地域の消防拠点について。 土地選定中とあり、来年度（令和4年度）支障も見込みがないとのことですがその理由は？計画実行しなくても支障はないのでしょうか</p>	<p>今回の消防広域化において、広域化実施後も寒川町内の消防拠点は寒川町が、茅ヶ崎市内の消防拠点は茅ヶ崎市が整備することを協定として締結しているため、茅ヶ崎市域の整備に影響が無いものと考えます。</p>
<p>南部地域の新たな消防拠点整備（土地取得） 土地取得は大変難しく重要な事柄で時間がかかるのはやむを得ない側面があるが、一方、茅ヶ崎市と連携して進めて行く事業の側面もあるので、著しい遅滞とならないようにしなければならないと考える。</p>	<p>土地の選定、取得について、町としての候補地は複数の案があるものの、土地所有者の方との合意には至っておらず、令和3年度中の土地取得に至りませんでした。引き続き選定作業を進めますが、相手方のある交渉事項であり、町の意向のみで進めることができない点をご理解ください。</p>
<p>消防拠点整備 土地取得について 多くの公共施設の再編計画が長期間凍結した大きな要因の一つが消防拠点整備であった。にも拘わらず初年度から執行率ゼロと言うことは公共施設再編計画の今後に大きな影響を与えることにならないか。影響力を十分に精査して頂きたい。用地の確保は軽々にはできないことは十分承知しています。</p>	<p>なお、国による財源の補助が広域化後10年以内とされているため、現時点では北部地域の拠点も含め、令和4年から10年以内での新たな拠点2カ所整備を目指すこととしております。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>役場自家発電設備の更新 連続稼働可能時間が3倍以上となったというが、1日と5時間しか稼働できない。その上、出力が150kwとこれまでの4分の3になっている。設置から40年経過しているが、PCやスマホの普及、EVやLEDの導入など、この間の電力消費状況は著しく変化してきている。電力消費の変化には、プラスマイナスの両面があることに留意する必要があるが、非常時の最低限必要な電力量は150kwで賄えるのか。また連続稼働可能時間29時間で足りるのか。</p>	<p>消防庁が自治体に求める連続稼働可能時間は、「72時間が望ましい」とされています。その中で町として連続稼働時間が29時間のスペックで妥当と判断した理由は、次の点となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場庁舎の老朽化が進む中で、遠くない時期に庁舎の建て替えが考えられる。その状況下で自家発電設備をフルスペックの72時間稼働可能なものへ交換することは、投資効果として妥当ではないと判断したため、今後10年程度の長寿命化が図られる現在の方策とした。 ・石油商業組合と災害時の協定を締結しており、燃料供給体制を整えているため、連続稼働可能時間29時間でも対応可能と判断したため。 <p>なお、災害発生時は冷暖房を使用停止とするなど、必要最低限度の電力使用とします。</p>
<p>公共施設の利用状況の推移について 各施設の年度別利用（例えばふれあいセンター） 施設の修理、改善の必要性を予算実行前に再検討する必要があるのでは？2020年度、2021年度の利用状況</p>	<p>計画策定時点において、各施設の利用状況やコスト状況、建物の劣化度を踏まえて、個別施設ごとの対策を列挙したものが再編計画となります。</p> <p>再編計画に基づき、各年度の予算に対策費用を計上することとなりますが、例えば「社会情勢の変化により財政が厳しくなったことで対策費用を予算計上できない場合」や、「計画策定時点よりも予算計上段階において対策内容を精査し、対策実施費用の増減がある場合」、「コロナ禍を受けて利用状況に変化があったため、対策内容を大幅に見直す場合」もある点をご理解ください。</p>
<p>美化センター機器修繕 茅ヶ崎市との広域処理施設であり、茅ヶ崎市との間で、搬入量等に応じて案分して費用負担をすることとされている。費用負担割合の妥当性についても、経年による状況の変化を見ながら再検証していく必要がある点について留意して頂きたいと考える。</p>	<p>美化センターの機器については、オペレーションが止まることが無いよう毎年度定期的に修繕を実施しており、公共施設再編計画においては、令和12年度まで修繕を続けていくこととしております。また、建築後26年を経過していることから、令和13年度以降に更新または長寿命化の検討を行うこととしています。</p> <p>今後は、機器類の状況変化を捉えながら、茅ヶ崎市との情報を共有し、費用負担割合の協議も進め、本施設を適切に維持管理します。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>町営プール完成後の整備費償還 指定管理者に対するモニタリングを実施するなど維持管理については、指定管理者に任せっぱなしにすることなく注視していかなければならないが、整備費の償還については特段の意見は無い。</p>	<p>町の「指定管理者制度導入等に係る基本方針」において、毎年度モニタリング評価を行うこととしています。 具体的には、「年2回のモニタリング（上半期及び下半期）」と「年度末の総括評価」を実施しています。 町営プールのように、「指定管理者を公募し、利用者等に制限が無い施設」については、「指定管理者による一次評価」、「施設所管課による二次評価」、「外部モニター（＝関連する審議会等）による評価」を実施し、年度末に「指定管理者選定委員会による総括評価」を実施しています。</p>
<p>公共施設再編計画 令和3年度実施事項について</p> <p>① 自家発電設備更新について 意見・・・計画とおりに執行でき、より高性能な機種での更新で当初の目的は果たせたと思う</p> <p>② 消防拠点整備 土地取得について 意見・・・多くの公共施設の再編計画が長期間凍結した大きな要因の一つが消防拠点整備であった。にも拘わらず初年度から執行率ゼロと言うことは公共施設再編計画の今後に大きな影響を与えることにはならないか。影響力を十分に精査していただきたい。用地の確保は軽々にはできないことは十分承知しています。</p> <p>③ 美化センター機器修繕について 機器改善費用予算68,598千円に対しトータル50,227千円 率で73.2% 18,371千円は残金ということではよろしいですか？</p> <p>④ 町営プールについて 意見・・・485千円の予算に対し329千円 67.8%は償還月がズレの差額ですか？ 今後毎年26百万円の償還を行うとのこと。継続的に運営できるか試算できていますか？</p>	<p>②消防拠点について 引き続き国の財源補助がある広域化10年以内の拠点整備に向け、用地取得を目指します。</p> <p>③今回の資料において記載した金額は1月末時点でのものです。年度末までにさらに執行を進めるものもあります。また、計画策定時から実施内容や手法を精査した結果、計画計上額と予算額との間で差額が生じる場合もあります。</p> <p>④計画計上時点では想定額として計上しましたが、この度、町営プール整備にあたり正式に県企業庁との協定を締結したため、金額が確定し、差額が生じています。 また、<u>毎年度約26百万円の償還を行うことは、再編計画の財政シミュレーションに反映済みであり、継続的に財政運営ができると検証済み</u>です。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>令和3年度から検討を進めたものについて</p> <p>① 小中学校適正化等検討委員会について 意見・・・そもそもは再編計画の一環として出された課題であるにも関わらず、ほとんど学校関係者で構成されていることでよいのでしょうか？委員全体で18名もいるのに行政4人と自治連1人で偏りすぎている気がします。（公募も学校関係者が多いのでしょうか？）再編委員会からも委員を出すべきではないでしょうか。</p> <p>② 保健福祉の集約施設整備について 意見・・・理由2の賃貸借契約期日の到来が延長になったとは言え、あくまで貸主の都合であり、建物の老朽化（耐用年数）は進んでおり、いつ契約解除の話が来るか知れないことや毎年多額（数百万円）の賃料を払い続けることの是非も考慮しなければならないと思う。理由3は福祉行政の根幹に関わる問題であり、現状のまま茅ヶ崎市が代行し続けてくれるのかを県や茅ヶ崎市に早急に明確にしてもらう必要があります。また理由3で県保険事務所移転が不透明を理由に、現在の健康管理センターの移転が遅れる理由にしないでいただきたい。あくまで町として平成21年3月に計画した「（仮称）寒川町健康福祉総合センター」をどうするのかの総合的判断で進めていただきたい。</p>	<p>①小中学校適正化等検討委員会について 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に「教育委員会の職務権限」が規定されており、第1号において「教育委員会の所管に属する～中略～学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関すること」、第7号において、「校舎その他の施設及び教具その他の設備の整備に関すること」が謳われています。つまり、学校の適正化に関する事項は、「<u>教育委員会が検討する事項（＝地方公共団体の長の権限ではないこと）</u>」であり、故に、教育委員会によって適正化等検討委員会が設置されています。 一方で、再編計画の中でも学校に対する対策が大きな比重を占めていることから、適正化等検討委員会の委員として、「<u>財政を所管する企画部長</u>」、「<u>再編計画を所管する総務部長</u>」が委員となっていることに加え、「<u>適正化等検討委員会の作業部会員に「財政課長」と「財産管理課長」が部会員となっており、町全体の施設配置、財政状況等も含めて学校適正化等の検討を行っておりますこと、</u>ご理解ください。</p> <p>②保健福祉の集約施設について ご指摘のとおり、子育てサポートセンターは賃貸借物件であることから、契約解除の可能性は否定できません。また、県福祉事務所の件もご指摘のとおりです。 そこで、今年度から集約施設の整備に向け、対策実施の行動を起こす予定ではありましたが、次の理由により、集約施設整備の方針は白紙とすることとしました。 ・リース物件で整備すると方針決定した段階から、根拠とした事由に変化が生じたため（＝子育てサポートセンターと県福祉事務所の件）。 ・コロナ禍を経験し、新しい生活様式を踏まえた公共施設のあり方等の視点を検討過程に加える必要性があるため。 ・コロナ禍を踏まえた上で、新たな財政推計等との整合を図る必要があるため。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>寒川町立小・中学校の適正化</p> <p>公共施設の再編を進めるに当たって、最も難しくかつ慎重に町民の合意形成を図らなければならないのが小中学校であると私は考えている。小中学校を創設した時の地主、多くの卒業生、これらいわば町の名士の他に、移住してきた町民、若い児童生徒の保護者である町民、何より肝心の児童生徒たちと、数多くのステークホルダーが全く異なる思惑の中で合意形成を図っていかなければならないからである。極端なことを申し上げれば、一つの町民家族の中でさえ、世代間で意見が衝突しかねない課題ではないかと思うのである。</p> <p>合意形成を図るのに妙案がある訳では無いが、提案したいことが2点ある。</p> <p>第一に、小学校、中学校といった学制、独立校である必要性、合築の可能性、町民外の生徒の受け入れの可否、徒歩通学からバス通学転換への可能性など、こうした既存の制度を前提とした適正配置の議論では難しいのではないかと考えている。</p> <p>図書館などの社会教育施設や高齢者施設との合築や一部施設の共有化や、大規模統合を図って通学バスによる通学などの規定概念にとられない学校の在り方を考えていく必要がある。さらには保護者家族の在り方も大家族から、核家族化の上に、両親ともにフルタイムで働いているのが当たり前になってきている。そうした家族構成や保護者の働き方など、こうした社会構造の変化に則した学校施設の在り方、新しい学校建築やその配置を提案して、それをたたき台に検討して合意形成を図っていくことを提案する。</p> <p>第二に、日本各地にある新しい学校建築、新しい学校のあり様を、検討委員会の皆さんで現地調査することを提案する。</p> <p>各種施設との合築や新しい考え方に基づく配置を実施している事例を体感することにより、新しい寒川の施設のあり様が思い浮かぶのではないかと思うからである。</p>	<p>寒川町立小・中学校の適正規模・適正配置等の検討については、今年度「寒川町立小・中学校適正化等検討委員会」を設置し、検討を進めているところです。</p> <p>今後につきましては、「将来の寒川子どもたちにとって、めざすべき望ましい教育環境づくりを行う」を基本的な考え方とし、本年6月末までに策定予定の「寒川町立小・中学校適正化等基本方針」に基づき、「寒川町がめざす学校規模」のほか、「学校の適正化等を進めるにあたっての留意事項」ということで、「学校の新たな「かたち」づくり」や「適正な配置バランス」、「通学時の安全等」、「校舎の安全等」、「児童生徒への配慮」、「地域への配慮」の6点を中心に検討を進めていく予定です。</p> <p>また、このたびの学校適正化等の検討を契機とした魅力ある学校づくりに向け、今後さらに求められるであろう取組への考え方を整理しながら、その中でも、学校の新たな「かたち」づくりとして、「コミュニティ・スクール」、「小中一貫教育」、「少人数教育」の3つの取組についてしっかりと検討してまいりたいと考えております。</p> <p>なお、今回ご提案いただきました点についても参考とさせていただきますながら検討を進めていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>保健福祉の集約施設整備 施設の賃貸借契約更新も重要な要素だとは思いますが、所詮は役場の事務室である。恒久的な施設のめどが立たなければ、町民の利便性さえ損なわなければ、臨時的な簡便ないわゆるプレハブ施設でも十分であるし、別種の公共施設や民間の建物に入れば良いのである。現在のコロナ禍の中で保健行政に係る拙速な判断は避けた方が良いかもしれない。</p>	<p>保健福祉の集約施設については、次の点により白紙としました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサポートセンターの賃貸借契約が延長可能となったこと、県の福祉事務所の茅ヶ崎市保健所からの撤退期日が不透明になったこと。 ・コロナ禍を経験し、新しい生活様式を踏まえた公共施設の在り方等の視点を検討過程に加える必要がある点。 ・コロナ禍を踏まえた上で、新たな財政推計等との整合を図る必要がある点。 <p>以上のような点に加え、「学校適正化に向けた動き」、「消防広域化による分署、出張所整備後の現行消防庁舎の活用方法の検討」、「役場庁舎の老朽化対策」なども含め、様々な事情や課題を解決するための方策を「年単位で検討する必要」があります。</p> <p>そのため、町全体の施設配置をさらに具現化するため、エリアに分けた施設の在り方の検討や、再配置実施のための手法として、PPP/PFI手法の活用なども検討したいと考えております。</p>
<p>総合体育館 25年経過施設であることから、長期的（50年、60年）なスパンでこの施設の見通しを立てることを勧める。立て直しか改築か大規模修繕、長寿命化などの選択を決定する時期ではないと考えるが、無駄な修繕費だったと言われたいよう、そろそろ長期的にはどの方向で考えていくのかを意識的に検討した方が良いと考える。</p>	<p>ご指摘のとおり、長期的な視点で施設の見通しを立てる必要があると認識しております。</p> <p>再編計画策定過程における施設の評価として、「更新・長寿命化」と判定しており、この評価に基づき、「機械・設備類の更新」と「建具や外壁面の補修」を16年間の対策として行うこととしました。</p> <p>今後は、大規模改修工事や建物の更新も視野に入れ、「大規模な対策」が必要となってくることから、PPP/PFI手法の導入も含めて検討したいと考えています。</p>
<p>令和4年度実施予定事項について 本年度第1回委員会時にいただいた「再編計画 対策実施費用一覧」の2022年度と対比すると図書館関係費用が抜けているようですね。何か理由があるのでしょうか？ 来年度の委員会の資料として重要なので各項目の予算額を明記していただきたい。</p>	<p>予算編成時点で図書館の計画箇所について、改めて機器等の現状、その他の箇所などとの優先性を評価した結果、当面の着手を見送ることとしました。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>公共施設再編計画進行管理委員会は初年度の進行管理委員会であり、今後の委員会としてのミッションをしっかりとしたものにするため、令和3年度の執行状況を詳細に分析し報告していただきたい。 ご承知のとおり行政はEBPMで業務の執行・評価を行っているので、委員会の進め方も同様の進め方で行っていきましょう。</p> <p>公共施設計画の進行管理をする委員会でありますので、本来ならば書面でなく対面での会議にすべきでしたが、今般の状況を鑑みやむを得ません。まん延防止等重点措置が解除後の早い時期に、町のHPに掲出する前に今回の書面開催で出された意見の報告を兼ねてホローの会議を開催していただきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、今回の委員会において頂いた意見等の報告する場を検討したいと考えております。</p>
<p>【議題に関する意見・質問】 令和4年再編計画 実施予定事項の内</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和2年実施の旭小学校の「実施前と補強後」の写真が同じ場所とは思えません。同じ場所の写真が絶対必要です。 旭小学校のネット補強工事と令和4年度実施予定の東中と一之宮小の修繕工事は、①ネット等同じ材料なのですか。②ネット張り後の耐用年数はどの位と考えているのですか。 東中は建設から対策工事までの期間が他の学校よりも短い（8～11年短い）のは何故ですか。 <p>①建設時に問題があったのか。 ②環境が他の学校より悪いのか。 ③その他 特別な理由があるのか。</p> <p>上記2とも関係しますが①②の場合、原因がはっきりした上での補強対策になっているのか心配です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旭小学校の写真について ご指摘のとおり、同じ個所の「実施前と実施後」の写真が適切であったと認識しておりますが、「ネットでの補強」をより分かりやすくするための写真を選択している点をご理解ください。 ネット補強工事について 旭小学校と同様の部材を使用する予定です。 また、耐用年数は、10～15年を想定しています。 東中学校について 東中学校は、建設以来大規模なリニューアル工事を行っていないことも（東中学校と南小学校以外の6校は、昭和40年代～50年代にかけて整備されたこともあり、すでに耐震補強工事や大規模改修工事を実施済み）あり、平成29年度に行った建築物劣化診断調査においても、劣化度が高いとの調査結果が出ています。そのため、学校適正化等検討委員会での結論が出され、その結論に基づく対策が実行されるまでの間の当面の対策として、ネット補強対策を講じるものです。

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・自家発電設備について 計画どおり執行でき、より高性能な機種 of 更新で当初の目的は果たせたと思う 	<p>【頂いたご意見の紹介】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学校修繕 小中学校の再配置が検討課題になっている以上、児童生徒の安全を図るなど最低限の修繕で許していただかざるを得ないと考える。 	<p>【頂いたご意見の紹介】</p>
<p>【再度頂いたご質問・ご意見】 消防広域化について 寒川町と茅ヶ崎市の各々が各々の地域の整備を進めていくことは理解したが、私の質問は、寒川の整備の遅滞が、広域化整備に何らかの障害を与えることはないのかという意味なので、遺憾ながら質問の答えとしては不十分だと考える。</p>	<p>町内に南北2か所の消防拠点を整備する時期は、令和4年4月の消防広域化実施から10年以内（令和7年度及び令和13年度の運用開始）としております。 今回、当初の計画（令和3年度用地取得）どおりに用地取得が進まず、新たな拠点整備に遅れが生じたことで、広域化整備に何らかの影響があるのではないかとのご質問ですが、計画どおり令和7年度に運用を開始し、管轄エリア全体の警備体制に影響が出ないよう、現在、調整・検討しております。 現時点では、既存機能において可能な限り対応して参りますので、ご理解くださいますようお願いいたします。</p>

令和3年度第2回寒川町公共施設再編計画進行管理委員会 書面会議会議録

委員より頂いたご質問・ご意見	令和4年3月末日時点での町の考え
<p>【再度頂いたご質問・ご意見】</p> <p>庁舎自家発電設備について</p> <p>遺憾ながら、現在の対応では、寒川町の災害対策に欠陥があると言わざるを得ないのではないだろうか。</p> <p>①冷暖房の停止など必要最低限度の電力使用とするのは、災害時には当然のことであって、出力不足や運転時間不足の対応にはなりえない。</p> <p>②もし協定等で燃料供給体制があれば、72時間の備蓄が不要であると考えているとするならば、災害時備蓄に対する誤りがあるのではないだろうか。</p> <p>③投資効果を考えて適切な時期に適切な投資をすべきことはその通りであるが、その投資ができるまでの間をどのようにして役場機能を維持していくかが問われているのである。レンタルでもリースでもいいので、何らかの対応をしていくことが求められているのではないだろうか。</p>	<p>災害時の自家発電機設備稼働中の連続稼働可能時間数不足は、ご指摘のとおりであります。</p> <p>今回の発電機改修工事においては、国の基準に沿う改修には、建屋内タンク約950ℓを新たに1基追加設置する必要があります。</p> <p>この条件を満たすには、消防法等において現在の少量危険物貯蔵所から一般取扱所に規制基準が変わることから、各タンク周囲に一定の距離を保つための保有空地を確保する必要があるなど、現状の建屋周辺では示された条件を確保することが厳しい状況であったため、既存有効スペースを最大限活かした施工で現在の改修工事を行い、これまで以上の性能を確保したところでございます。</p> <p>一方で、防災拠点である役場機能の維持面においては、防災行政用無線にいたっては今回の自家発電設備改修工事とは別に単独で72時間の稼働を可能とする発電機を設置するなどして、災害時の電力供給体制の強化を図るなど、災害時における持続可能な体制づくりが構築できるよう取り組んでいますこと、ご理解いただければ幸いです。</p> <p>また、電力使用については、昨年の自家発電設備改修工事における電力使用量調査において、平時において発電機容量150kVA内で電気容量が足りる結果がでておりますが、停電時の庁舎の施設機能の維持及び電力の安定供給をより確実なものとするためにも、過去の例を教訓に、また、長期の停電に備えて、燃料供給体制も含め関係機関と連携を図りながら引き続き検討してまいりたいと考えております。</p> <p>庁舎の更新の際には、ご指摘のとおり国指針の基準に沿うような災害機能の確保について、検討していきたいと考えておりますので、併せてよろしくご意見を伺いたします。</p>



令和3年度第2回 寒川町公共施設再編計画 進行管理委員会

2022/2/16



目次

- 公共施設再編計画 令和3年度実施事項について・・・ 3
- 令和3年度より検討を進めたものについて・・・ 8
- 公共施設再編計画 令和4年度実施予定事項について・・・ 13

*この資料内の金額について

①1月末時点での金額です。

令和3年度実施事項については、年度末までに変更となる場合があります。

②表示単位未満を切り上げて表記しています。

公共施設再編計画 令和3年度実施事項について

○再編計画において令和3年度実施予定としていたもの

- ①役場自家発電設備の更新
- ②南部地域の新たな消防拠点整備（＝土地取得）
- ③美化センター機器修繕
- ④町営プール完成後の整備費償還

公共施設再編計画 令和3年度実施事項について（続き）

①役場自家発電設備の更新 契約額＝35,127千円

製造年月：昭和60年（1985年）11月（36年経過）



各機能\前後比較	現在	更新後
出力（単位：KVA）	200	150
燃料消費量（L）	100	31.9
タンク容量（L）	950	
稼働可能時間（時間）	9	29

- ・ 出力を抑えた形式への更新であるものの、**連続稼働可能時間が現時点より3倍以上へ。**
- ・ 既存の建屋をそのまま活用し、雨漏り修繕を実施。
- ・ 水害対策として、止水板を設置。

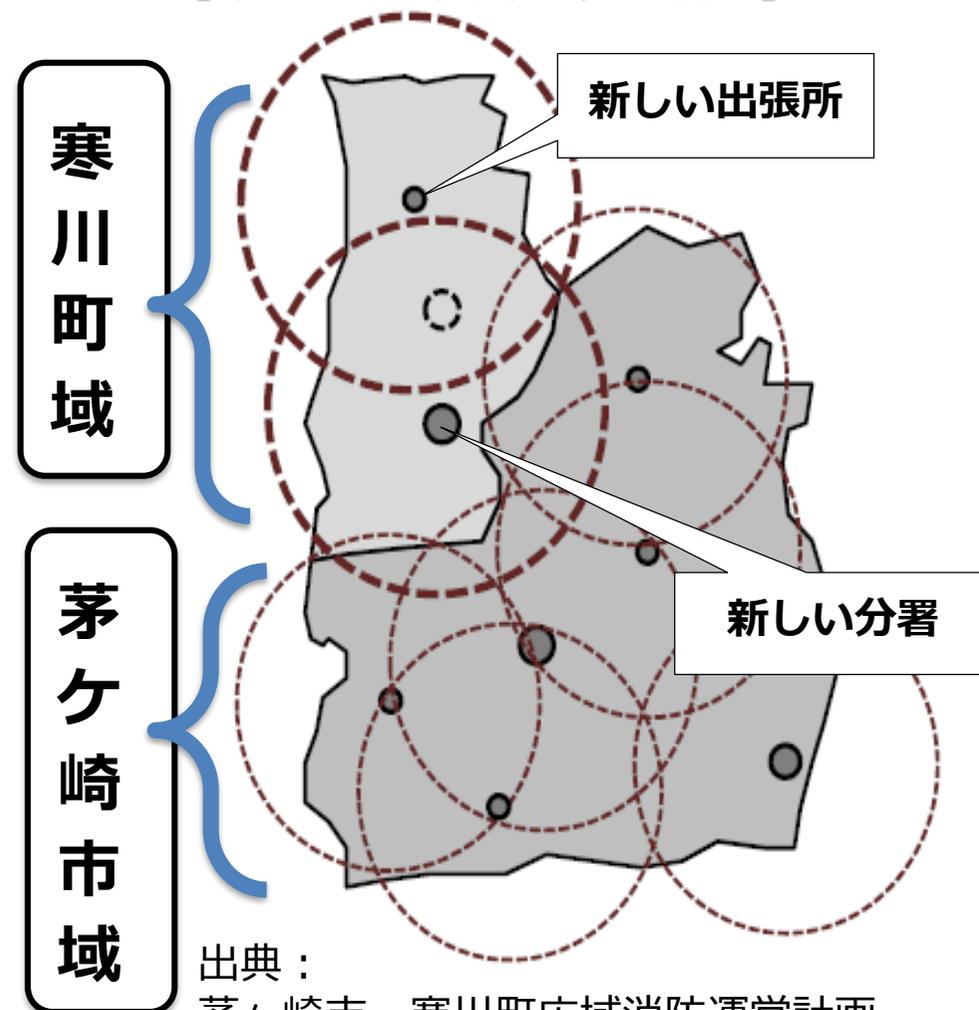
②南部地域の新たな消防拠点整備（＝土地取得）

・ 土地取得は未着手

現在、整備場所の土地を選定中。今年度内に整備場所選定が終わる見込みが無く、来年度以降の建物整備についても遅れる見込み。

＝再編計画上、令和4年度に建物設計費用を計上していたが、令和4年度当初予算案には計上していない。

【最終的な署所配置（案）】



出典：
茅ヶ崎市・寒川町広域消防運営計画
における広域化後の署仮配置案より

③美化センター機器修繕

平成7年（1995年）12月建設（26年経過）



- ・し尿及び浄化槽汚泥の処理施設。
- ・茅ヶ崎市との広域処理施設（維持管理費用及び運営費は、茅ヶ崎市と本町との間で、当該年度の搬入割合等に応じて案分）。
- ・機械設備類について、毎年度定期的に修繕を実施。

- ・DCSシステム点検整備工事： 3,252千円（=し尿処理施設運転制御システム）
- ・スクリーンプンプ整備工事：27,302千円（センター内複数個所）
- ・浮上分離槽整備工事： 13,200千円
=処理水を薬品と空気により、汚泥と水分とに分離させる設備）
- ・循環ポンプ等整備工事： 6,473千円（センター内複数個所）

公共施設再編計画 令和3年度実施事項について（続き）

④町営プール完成後の整備費償還 整備費用＝488,847千円

今年度より20年間で償還（利息を含む）

- ・今年度は329千円、令和4年度からは約2千6百万円を毎年度償還。
- ・平成25年（2013年）に床面隆起により利用休止。
- ・「寒川町公共施設等総合管理計画」策定時に（＝平成28年度）改修を決定し、今年度より供用開始。
- ・ハヤシグループが指定管理者。
- ・「HAYASHIウオーターパークさむかわ」のネーミングライツを導入。



令和3年度から検討を進めたものについて

①寒川町立小・中学校の適正化

②保健福祉の集約施設整備

令和3年度から検討を進めたものについて（続き）

①寒川町立小・中学校の適正化

○寒川町立小・中学校適正化等検討委員会の設置

・委員構成（18名）

①学識経験者

②学校に在籍する児童又は生徒の保護者代表

③自治会長連絡協議会代表

④寒川町立小学校長会代表 ⑤寒川町立中学校長会代表

⑥小・中学校教職員代表 ⑦公募の町民

⑧企画部長 ⑨総務部長 ⑩町民部長 ⑪学び育成部長

令和3年度から検討を進めたものについて（続き）

○検討委員会での議論内容（概略）

- ・寒川町公共施設再編計画について（説明）
- ・寒川町立学校のめざすべき望ましい教育環境に関するアンケート結果について（報告）
- ・学校の適正規模・適正配置等に関する考え方について（文部科学省作成の手引きの説明）
- ・基本方針骨子（案）について
- ・基本方針（素案）について 等々



◎令和5年度中を目途に適正化の結論を出す予定

令和3年度から検討を進めたものについて（続き）

②保健福祉の集約施設整備

- ・ 集約施設整備を決めた理由その1
健康管理センターの老朽化。
- ・ 集約施設整備を決めた理由その2
子育てサポートセンターの賃貸借契約期日の到来
- ・ 集約施設整備を決めた理由その3
平塚保健福祉事務所茅ヶ崎支所（＝県の福祉事務所）の茅ヶ崎
崎市保健所からの撤退。



理由その2 = 子育てサポートセンター賃貸借契約期日の到来、
理由その3 = 県の福祉事務所の茅ヶ崎崎市保健所からの撤退の2
件について、計画策定時点より事情が変わる。

令和3年度から検討を進めたものについて（続き）



- ・子育てサポートセンターの賃貸借契約延長が可能となる。
- ・県の福祉事務所の茅ヶ崎市保健所からの撤退期日が不透明になる。



鉄骨リース建物による「保健福祉の集約施設の整備」について、整備を決めた時点から「判断の根拠となった事項に変更が生じた」ため、現在、保健福祉の集約施設整備については、再検討中。

公共施設再編計画 令和4年度実施予定事項について

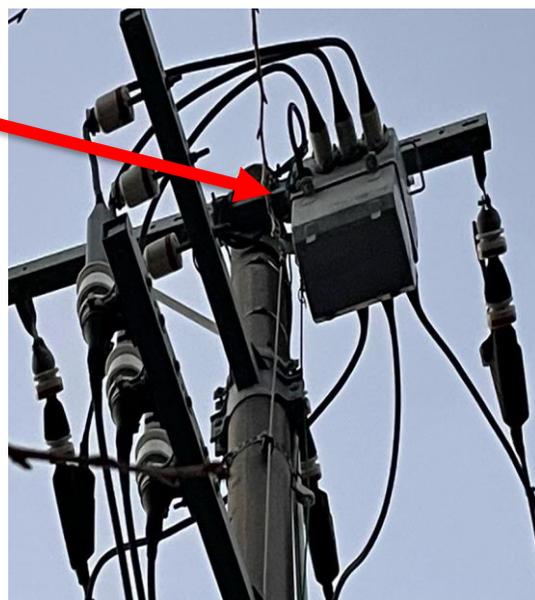
- ①ふれあいセンター電気設備修繕
- ②総合体育館外壁面修繕設計
- ③総合体育館アルミ製建具修繕設計
- ④総合体育館機器類修繕設計
- ⑤総合体育館機械器具設備更新
- ⑥寒川東中学校北棟外壁修繕
- ⑦一之宮小学校南棟外壁修繕
- ⑧美化センター機器類修繕

①ふれあいセンター電気設備修繕

平成15年（2003年）3月建設（19年経過）



- ・ 高齢者の社会参加、地域の交流を行い、介護予防の促進のために設置。高齢者向け体操教室、カラオケ教室、作業研修などを実施。
- ・ 公益財団法人寒川町シルバー人材センターが指定管理者。



- ・ 柱上高圧気中開閉器（*）及び高圧ケーブルの交換費用を予算案計上済み。

* 柱上高圧気中開閉器：異常電流が発生した場合、近隣への被害を最小限に抑えるため、電流を遮断する物。また、近隣からの異常電流を遮断する役目もある。

公共施設再編計画 令和4年度実施予定事項について（続き）

②～⑤総合体育館

平成9年（1997年）11月建設（25年経過）



- ・ 町民の健康増進と体力向上を図るため設置。
- ・ シンコースポーツ・静岡ビル保善共同事業体が指定管理者。
- ・ シンコースポーツ寒川アリーナのネーミングライツを導入。

* 総合体育館は、実施事項を精査、年度間の調整を図ったため、再編計画計上内容から変更があります（＝赤文字部分）。

②総合体育館外壁面修繕

③総合体育館アルミ製建具修繕

＝上記2件は令和4年度に設計（職員対応の予定）。

工事は令和5年度に実施予定。

公共施設再編計画 令和4年度実施予定事項について（続き）

④総合体育館機器類修繕

- ・ 吸収式冷温発生器 ・ 武道場空調新設
- ・ サブアリーナ空調新設（再編計画未計上の追加項目）
= 上記3件は令和5年度工事実施に向け、令和4年度に設計。
→ 3件合わせた設計委託費を予算案計上済み
- ・ 中央監視盤等更新 = 令和3年度着手済み（前倒し実施）
= 今年度9月補正予算計上 契約額：37,891千円/60ヶ月
（= 機械リース契約）
- ・ サウナ浴槽設備修繕工事 = 今年度中に着手予定（前倒し実施）

⑤体育器具設備更新

- ・ バスケットゴール、武道場の畳、及び音響設備等の更新
に要する費用を予算案計上済み。

公共施設再編計画 令和4年度実施予定事項について（続き）

⑥寒川東中学校北棟外壁修繕

平成元年（1989年）3月建設



⑦一之宮小学校南棟外壁修繕

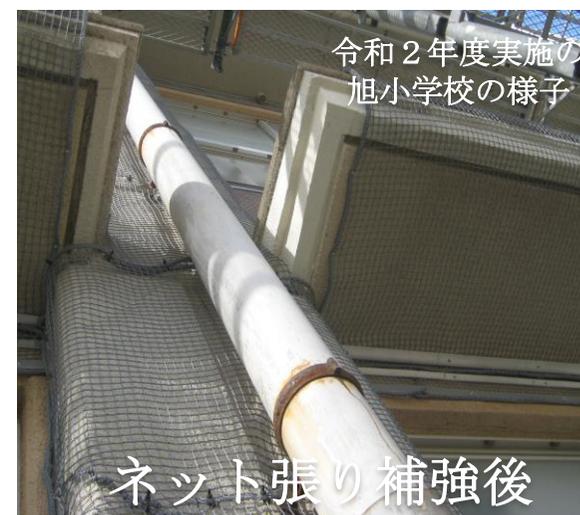
昭和56年（1981年）3月建設



- 外壁の経年劣化による落下防止の為の対策を実施
= 両校ともに対策実施費用を予算案計上済み



外壁にネットを張り補強



⑧美化センター機器類修繕

- ・ DCSシステム等点検整備工事
- ・ スクリューポンプ等整備工事
- ・ 脱臭装置等整備工事

（し尿処理により発生する悪臭を適正に脱臭する装置）

- ・ 空気溶解機整備工事

（し尿処理工程において、汚泥を浮上させるために必要な空気と生物処理後の処理水を混合する機械）

それぞれの
対策に要する
費用を予算案
計上済み



DCSシステム



スクリーポンプ



空気溶解機



これからの公共施設マネジメント

～公民連携も含めた手法への取り組みと 施設整備のためのビジョンづくり～

2022/11/11



総務部財産管理課

目次

1. 公民連携とは

1-1	用語説明（そもそも 公民連携とは・・・）	5
1-2	他自治体の取り組み例	6
1-3	公民連携による公共施設マネジメント手法の例	7
1-4	留意点（これからの施設整備に向けて）	8～9
1-5	つまり・・・（取り組むべき目的）	10
1-6	やってはいけない進め方（状態）の例	11
1-7	これからの公共施設マネジメント	12
1-8	マーケティングとは①②	13～14
1-9	今後の進め方（公共施設のマーケティング会議）	15
1-10	公共施設のマーケティング会議の成果品のイメージ（例）	16

目次

2. これから取り組む事項

- 2-1 直近の課題《公共施設のマーケティング会議で取り上げるべき事項》 … 18
- 2-2 健康管理センターの老朽化対策としての現時点の整理 …… 19
- 2-3 健康管理センターの老朽化対策として今後必要なアクション …… 20
- 2-4 公民連携による公共施設マネジメントとして今後必要なアクション …… 21

3. ビジョンづくりに向けて

- 3-1 施設整備の拠り所となるビジョンとは …… 23～25
- 3-2 ビジョンづくりのための具体的なアクション …… 26
- 3-3 施設整備のためのビジョンづくりの検討体制 …… 27
- 3-4 将来的には・・・ …… 28
- 3-5 最終的には・・・ …… 29

公民連携とは

Public Private Partnership

→ 「公」と「民」が連携して公共サービスを提供
する手法

* 施設整備の手法とは限らない

他自治体の取組み例

- 地方部における「タクシー事業者」と自治体との連携による「地域交通の確保」
- 薬局内に「高齢者の憩いの場」を提供し、健康増進への寄与

など、ソフト事業での公民連携も存在する

公民連携による公共施設マネジメント手法の例

■ PFI手法による施設整備＋施設の運営と維持管理

■ 上水道や空港のコンセッション方式

→施設の所有権を公が保有したまま、運営権を民に任せる手法

■ 指定管理者制度による施設運営と維持管理

→例：大阪城公園パークマネジメント事業

= 指定管理料「0円」。指定管理者は毎年度大阪市へ固定納付金と変動納付金を払う。収益施設を企業が整備し、大阪市へ寄附。→公費を投入して維持管理していた施設が、「稼ぐ施設」へ変身。

■ 民間企業にまちづくりを任せる手法（*行政が出資する法人）

→例：岩手県紫波町の「オガールプロジェクト」

留意点（これからの施設整備に向けて）

- ・ 公民連携そのものが目的ではない
 - 機能（行政サービス）の維持・向上とコスト縮減が目的
- ・ PFI事業を実施すること自体が目的ではない
 - 民間力を活用することで、機能を維持、拡充し、利用者の利便性向上を目指す
- ・ 施設整備自体を目的化してはいけない
 - 行政サービスとして求められる機能（サービス）の探求

※場合によっては、施設を使用しないサービスへの転換もあり得る

留意点（これからの施設整備に向けて）

- 新しい施設を整備して何をを目指すのか？の明確化
→ ビジョン（方向性）・目的の明確化
- 何をを目指すから、新しい施設を整備するのか？の明確化
→ 目的を前提として、求められる機能（サービス）を具現化するための手段の明確化
- 「民」と組むのであれば、「民」がビジネスとして成り立つスキームにしなければならない
→ 町が持つ価値観の洗い出し・魅力の創出

つまり・・・（取り組むべき目的）

『「公民連携」が施設整備の手法として最適である』という判断材料になり得る状態
とすること

やっではいけない進め方（状態）の例

民間事業者：「結局、行政は何をしたいのですか？」

行政側：「〇〇施設を整備したい」

民間事業者：「・・・。それは分かっています。

施設を造ってどうしたいのか、何をしたい
のですか？」

行政側：「・・・。」

→ 上記のような例は、悪目立ちなのかもしれないが、実際
にあったケース。このような状況にしてはいけない。

これからの公共施設マネジメント

【再掲】

- ・新しい施設を整備して、何をを目指すのか？ 《目的》
- ・何をしたいから施設を整備するのか？ 《手法》

つまり、ビジョンから逆算して、どのような施設・機能が必要なのかを考える。

そもそもビジョンは何か？の確認も大切。

進め方のイメージとしては・・・

「商品開発会議（マーケティング会議）」

→これからは「公共施設のマーケティング会議」が必要

マーケティングとは①

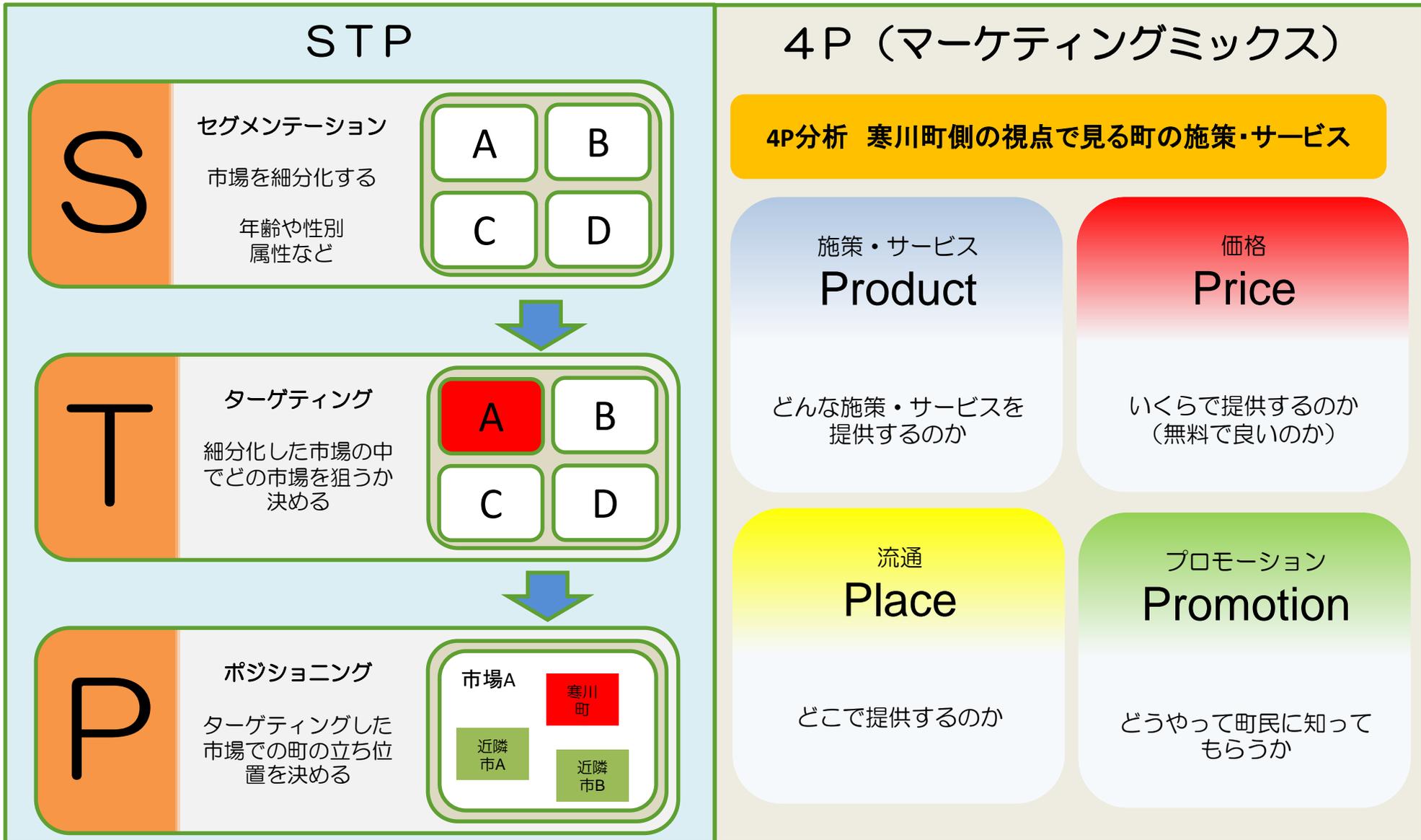
『マーケティング』とは、ということか？

簡単に言うと、「誰に」、「どのような価値を」、「どのように提供するのか」を「考えること」と言われている。



つまり、町が求められるソフト面としての機能（サービス）を分析・調査をし、『寒川町』に求められるサービスを提供できる仕組み（体制）を作り上げること。

マーケティングとは②



今後の進め方（公共施設のマーケティング会議）

■キックオフミーティングでのブレインストーミング



■キーワード選択



■3C分析（顧客、競合、自社が置かれている現状分析）

■SWOT分析（内部と外部環境の強味・弱み分析）



■行政は「何を求められているのか？」

■行政は「何をすべきなのか？」の把握

→ マーケティングの視点、ビジネスフレームワークの活用など

公共施設のマーケティング会議 成果品のイメージ（例）

総合体育館
(年間10万人が利用)

中央公園

- ・ 家族で集える公園
- ・ BGMのある公園
- ・ マルシェやキッチンカーが来る公園
- ・ 演劇 シアターなど神社とのコラボ
- ・ プロスポーツ選手とのふれあい

駐車場
(現庁舎跡地)

- ・ 平日は駐車場
- ・ 土休日はイベントスペース

保健福祉集約施設
(子育てサポートセンター
健康管理センターなど)

役場庁舎
町民センター

- ・ 音楽が流れる庁舎
- ・ テレワーク+フリーアドレスが浸透
- ・ 町民の手続きはスマホかPC
= 手続きでの来庁は減る
= 来庁者は相談がメイン
- ・ 町民と職員が集う場
- ・ コワーキングスペース
- ・ カフェ

- ・ 居心地の良い中庭
- ・ ロビー ホールコンサート

総合図書館
(年間27万人が来館)

町の中心となる
このエリア

「賑わい創出」
& 「居心地の良い場」



「人が人を呼ぶ」好循環



エリア活性化



流入人口増 &
ビジネスチャン
ス拡大へ

役場を「的(中心)」にせず、「面(ゾーン)」として

これから取り組む事項

○保健福祉の集約施設を

「白紙」としたことへの対応

(健康管理センターの老朽化対策も含む)

健康管理センターの老朽化対策としての現時点の整理

プラン別 デメモリ表

	プラン①	プラン②	プラン③	プラン④	プラン⑤	
	健康管理Cの修繕 (雨漏り対策)	健康管理Cの 建替え (現在地での建替 え)	健康管理Cの 建替え (役場南側の 土地活用)	役場南側の土地に 集約施設 (健管C+子育てSC)	役場南側の土地に 集約施設 (健管C+子育てSC +役場+町民C)	現行消防庁舎 の活用 (健管Cと消防庁舎の 土地の一体活用)
概算イニシャル コスト (単位：千円)						
メリット	・対策の中で費用 が一番安価	・健管Cで建築確認済 のため、再建築可 能	・移転が1回で完了 ・仮設建物不要	・にぎわい創出交流 ゾーンへの寄与	・にぎわい創出交流 ゾーンへの寄与	・現有の公有地活用 ・現有の建物活用
デメリット	・修繕対応で雨漏 りが改善する保 証なし	・移転が2回必要 ・仮設建物が必要	・南側土地活用が 単一機能の建物で 良いのか？	・費用大	・費用膨大	・市街化調整区域内で の建物建築となる点 ・北の消防拠点整備時 期が不明
公民連携の 可能性	・修繕のみのPPP 手法はない ×	・単一機能のため、PFI手法の のメリット＝スケール メリットが少ない ▲ ・リース方式可能 ・リース+指定管理 が現実路線	・単一機能のため、PFI手法の のメリット＝スケール メリットが少ない ▲ ・リース方式可能 ・リース+指定管理 が現実路線	・多機能施設となる ため、人が集 まりやすく、民 間の収益施設整 備の可能性有り ○ ・PFIは可能 ・「実質的な VFM」は出ない ＝事業規模が小 さい	・多機能施設となる ため、人が集 まりやすく、民 間の収益施設整 備の可能性有り ◎ ・PFIは可能 ・事業規模が大き いため、「実質 的なVFM」は出 る可能性有り	・大規模改修+運 営のR0方式の可 能性はあるが、 応募があるか不 明 △ ＝老朽化が進んで いる既存施設を 活用する民間事 業者が現れるか 不明

健康管理センターの老朽化対策として今後必要なアクション

○デメモリ表の精度を上げ、

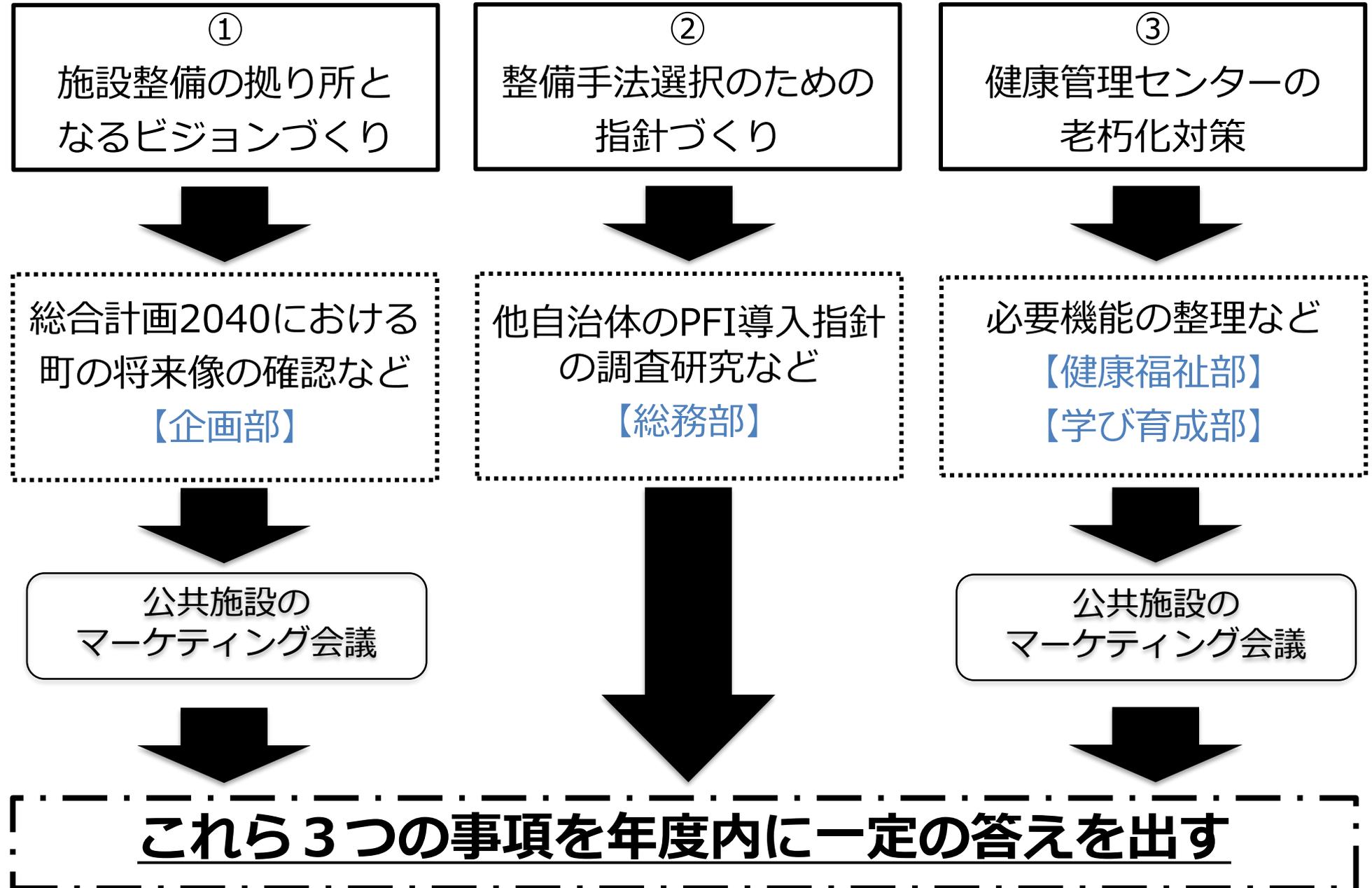
健康管理センターの 建替え or 集約施設整備 の判断



○公共施設のマーケティング会議

→場合によっては、「建替え or 集約施設の判断」と
マーケティング会議の行ったり来たりを繰り返す
ことになる

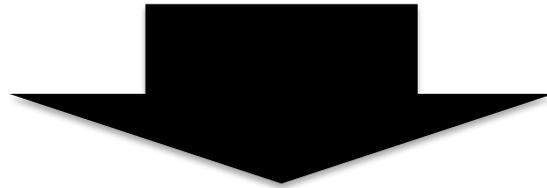
公民連携による公共施設マネジメントとして 今後必要なアクション



ビジョンづくりに向けて

施設整備の拠り所となるビジョンとは

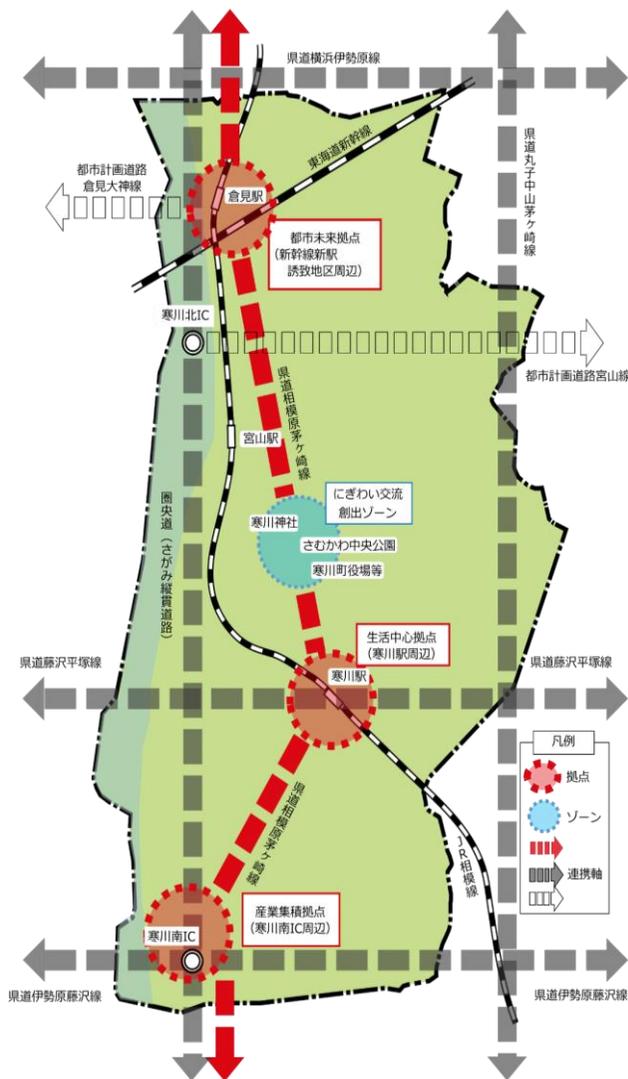
総合計画2040における町の将来像
「つながる力で 新化するまち」



- 『新化』した時、どのような町になっているのか？
- 『新化』するためには、何が必要なのか？

施設整備の拠り所となるビジョンとは（続き）

総合計画2040の基本構想における「将来都市構造」は
3つの拠点と1つのゾーンが骨格となっている



- 都市未来拠点 → 倉見地区
- 生活中心拠点 → 寒川駅周辺
- 産業集積拠点 → 寒川南インターチェンジ周辺
- にぎわい交流創出ゾーン → さむかわ中央公園周辺

出典：寒川町総合計画2040より

(基本構想「まちの将来の人口と都市構造」)

施設整備の拠り所となるビジョンとは（続き）

（仮称）ツインシティー連絡橋

イメージ図



出典：ツインシティー倉見地区
まちづくり基本計画（H14年）

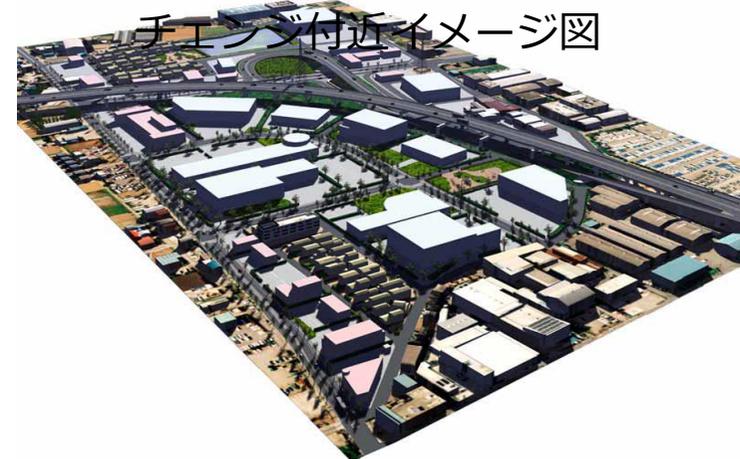
寒川駅北口広場公園

街並みパース



出典：寒川駅北口地区土地区画整理
事業のあらまし（H20年）

さがみ縦貫道路南インター
チェンジ付近イメージ図



出典：さがみ縦貫道路寒川南イン
ターチェンジ（仮称）周辺地区将来
土地利用構想図（H12年）

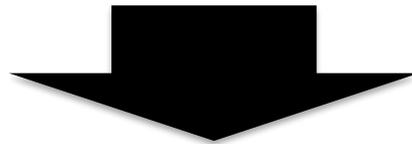
◎ 3つの拠点には「イメージ図が」あり、事業に着手している箇所もある



つまり、公共施設マネジメントとして
「イメージ図」や「ビジョン」が必要となるのは
「にぎわい交流創出ゾーン」ではないか？

ビジョンづくりのための具体的なアクション

- そもそも、「にぎわい交流創出」とは、
どのような状態なのか？
- 「にぎわい交流創出ゾーン」として
必要な機能・求められる機能とは何なのか？



これらを明確化するため、
「公共施設のマーケティング会議」を行い、
「ビジョン作成」に取り組む

施設整備のためのビジョンづくりの検討体制

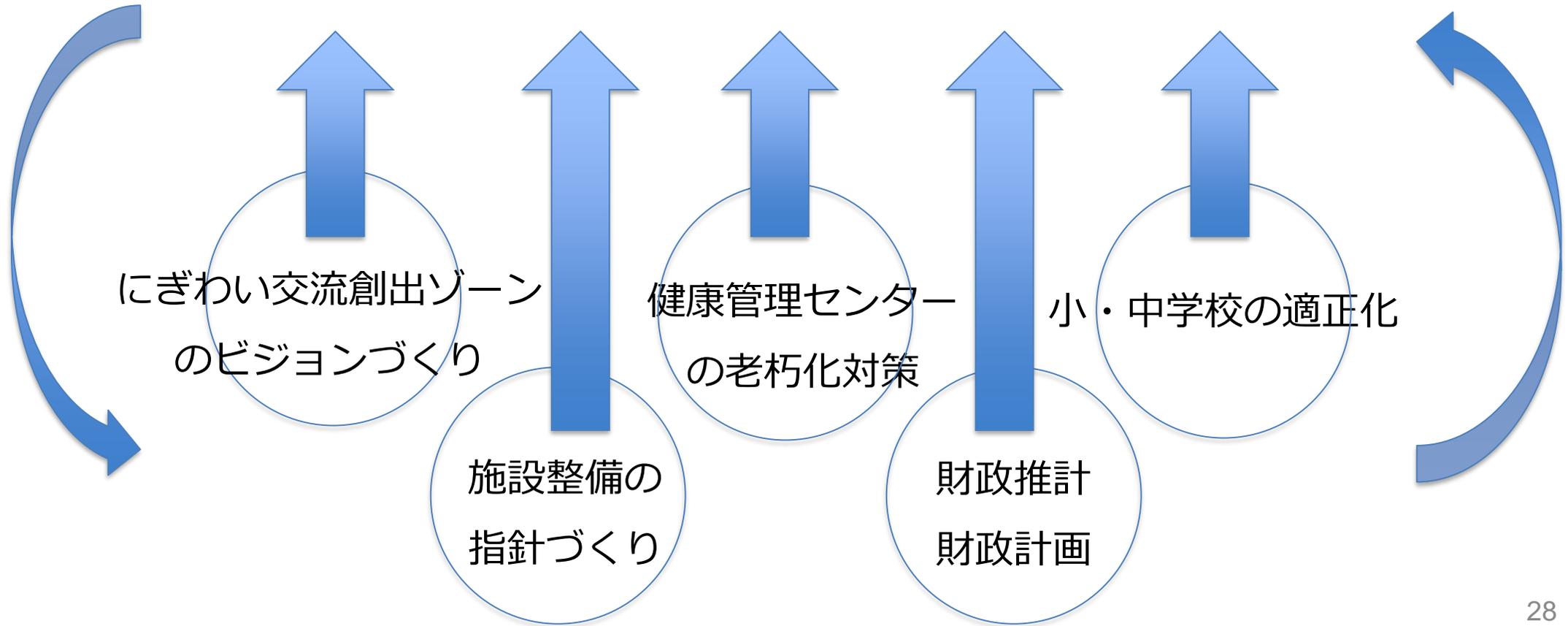
- 対策チームを設置し、「公共施設のマーケティング会議」で施設整備の拠り所となるビジョンづくりに取り組んでいく
- 検討を進めるにあたり、その状況（検討項目）により「マーケティング会議」の行ったり来たりの繰り返しを行いながら、一定の方向性（結論）を導き出していく

現状・課題把握 → 調査 → 検証 → 方向性(結論)



将来的には・・・

まちづくり全体のビジョンに繋がっていく
(発展・持続性・成長)



最終的には・・・

「3つの拠点」と

「にぎわい交流創出ゾーン」が

「つながり」まちの「新化」に寄与する

ことを目指す



これからの公共施設マネジメントについて (にぎわい交流創出ゾーンのビジョンづくり)

2022/11/11



目次

1. 公民連携による公共施設マネジメントとして必要なアクションの取り組み状況〔概要〕	3
2. 施設整備の拠り所となる にぎわい交流創出ゾーンのビジョンづくり	4-8
3. 対策チームの目的と役割 / スケジュール 共有・確認	9-11
4. まちの将来像「つながる力で 新化するまち」の確認	12-16
5. ブランドスローガン「高座」のこころ。 用語・定義の再認識	17-19
6. 寒川町のマーケティングリサーチ / 寒川町の目指すべき方向性	20-27
7. にぎわい交流創出ゾーンの分析から見えた方向	28-32
8. にぎわい交流創出ゾーンのビジョン全体像の作成工程	33-37
9. ゾーンのビジョン全体像作成に向けた必要な機能などのフレームワーク	38-41
10. ビジョンに求められるキーワード（要素）と既存施設との親和性確認	42-44
11. 公民連携による公共施設マネジメントの必要なアクション（続き）	45

1. 施設整備の拠り所となる にぎわい交流創出ゾーンのビジョンづくり 〔企画部〕

- ✓ まちの将来像「つながる力で 新化するまち」 & 「高座」のころ。の再認識
- ✓ マーケティング視点を取り入れた取り組み
- ✓ 分析から見た町の目指すべき方向性の確認
- ✓ ビジョン作成に向けたキーワードの整理

2. 整備手法選択のための指針づくり 〔総務部〕

- ✓ 国・民間主催 PPP/PFI研修への参加
- ✓ 先進地自治体の公民連携手法の調査・研究
- ✓ 施設整備のPPP/PFI手法優先的検討規程の作成
- ✓ PPP/PFI手法選択のためのガイドラインの作成

3. 健康管理センターの老朽化対策 〔健康福祉部〕 〔学び育成部〕

- ✓ センターとしての必要な機能の整理（※関連団体から求められる機能なども含む）
- ✓ センターの施設老朽化状況の把握・今後の対策の検討

施設整備の拠り所となる にぎわい交流創出ゾーンの
ビジョン作成の検討プロセス

対策チームの目的と役割 / スケジュール 共有・確認

P9-11

- これまでになかったマーケティングの視点を取り入れ、ビジョンづくりに取り組む
- 令和4年度末までに、にぎわい交流創出ゾーンの『ビジョン』を確定する

まちの将来像「つながる力で 新化するまち」の確認

P12-16

- まちの将来像（様々な「ヒト・モノ・コト」が「つながる」ことで、課題を克服し、これからの時代を切り開いていくことを目指すこと）を実現できる『ビジョン』をつくる

ブランドスローガン「高座」のこころ。 用語・定義の再認識

P17-19

- 『ビジョン』の作成にあたり、ブランドスローガンである「高座」のこころ。の用語・定義を再認識し、ブランドに沿った「町の持つ強み」を活かしていく

寒川町のマーケティングリサーチ / 寒川町の目指すべき方向性

P20-27

- ビジネスフレームワークを活用した「『寒川町』の3C / STP / PEST / SWOT分析」
- 分析による『寒川町』の目指す方向（独自価値観）

にぎわい交流創出ゾーンの分析から見えた方向

P28-32

- ビジネスフレームワークを活用した「『ゾーン』のPEST / SWOT分析」
- 分析結果から見えた、「にぎわい交流創出ゾーン」の目指す方向

にぎわい交流創出ゾーンのビジョン全体像の作成工程

P33-37

- 総合計画2040「まちの将来像」 & 「「高座」のころ。」 & 分析結果からビジョン作成に向けた、にぎわい交流創出ゾーン全体像の作成

ゾーンのビジョン全体像作成に向けた必要な機能などのフレームワーク

P38-41

- このゾーンの目指すべき姿（多様な人がゆるやかにつながる きっかけと人が集う場）に、「町に足りない」・「欲しい場所（空間）」・「必要なしくみ」のキーワード出し

(今後のスケジュール)

ビジョンに求められるキーワード（要素）と既存施設との親和性確認

P42-44

- 求めるハード/ソフト面の「キーワード」と、既存施設との親和性を確認
- 行政でしかできない サービス（ソフト面） / 施設機能 の 整理・選択
- 民間でもできる サービス（ソフト面） / 施設機能 の 整理・選択

ゾーン内に「足りない」「あったらいいな」と思える機能整理

- 既存施設には 「ないもの」・「あったらいいな」と思えるもの の実現可能策を探求（これまでのマーケティング視点から見た町の方向性との整合性の再確認・突合作業）

(今後のスケジュール)

町に関わるヒトとのワークショップ

ワークショップのブラッシュアップ / フレームワーク

ゾーンに求められる施設要件 / 機能要件 の 最終確認・設定作業

にぎわい交流創出ゾーンのビジョン作成 (未来像)

ビジョンの目的達成に向けた取り組み → 実行 (Do) に!

対策チームの目的と役割 / スケジュール 共有・確認

■ 対策チームの役割と目的

- 保健福祉の集約施設を「白紙」としたことへの対応策として、これまでにない取り組みとしてマーケティング視点を取り入れて、にぎわい交流創出ゾーンのビジョン作成に取り組む。
- 対策チームは、庁内の横断的組織で構成する。前提条件をなしにして、多角的な視点で、このゾーンに求められる、必要な機能（サービス）を提供できる仕組みを作り上げること。

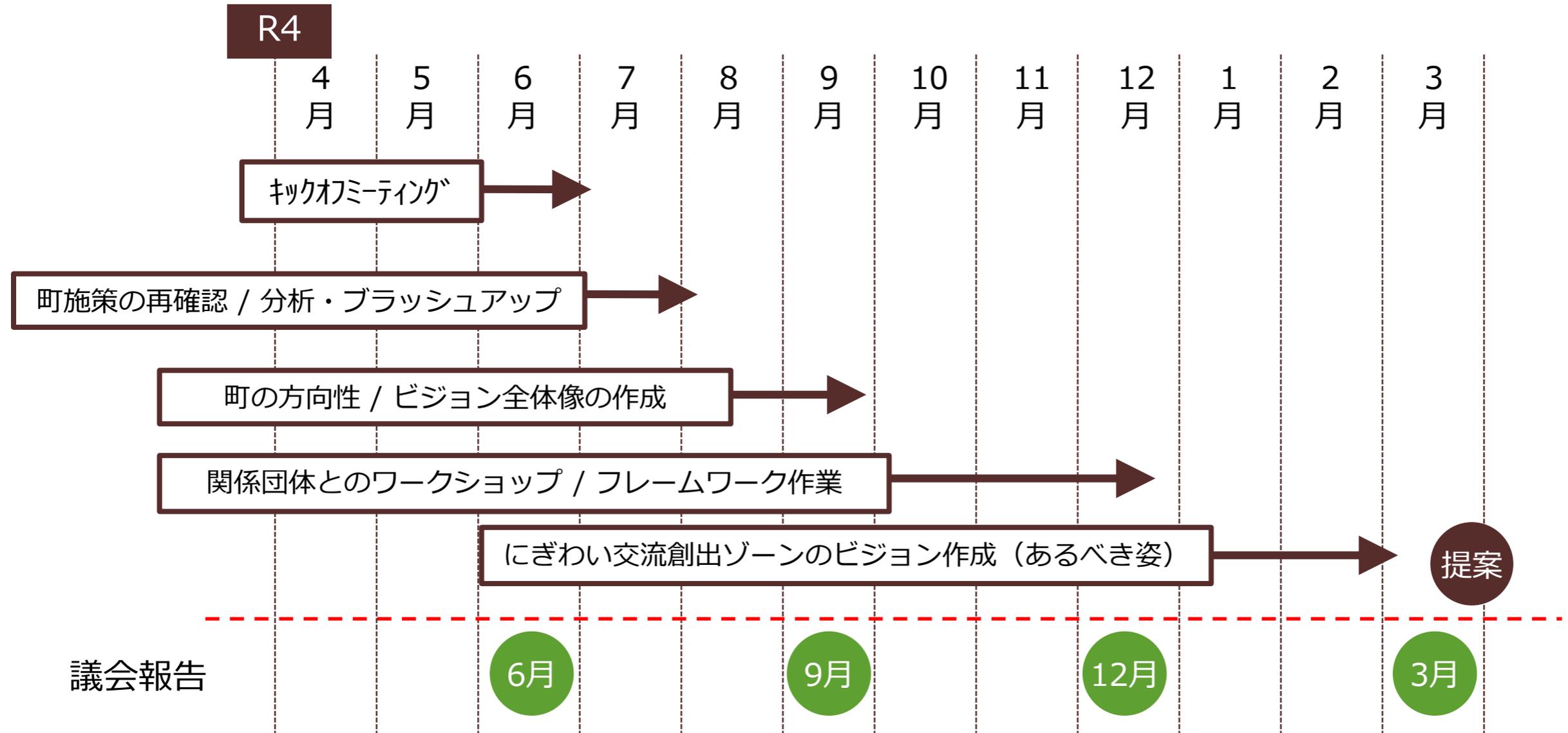
【対策チーム メンバー】

■ 財産管理課 ■ 企画政策課 ■ 健康づくり課 ■ 子育て支援課 ■ 産業振興課 ■ 都市計画課

- 令和4年度末を目途に、にぎわい交流創出ゾーンのビジョン作成に取り組む



■ 今後のスケジュール



まちの将来像「つながる力で 新化するまち」の確認

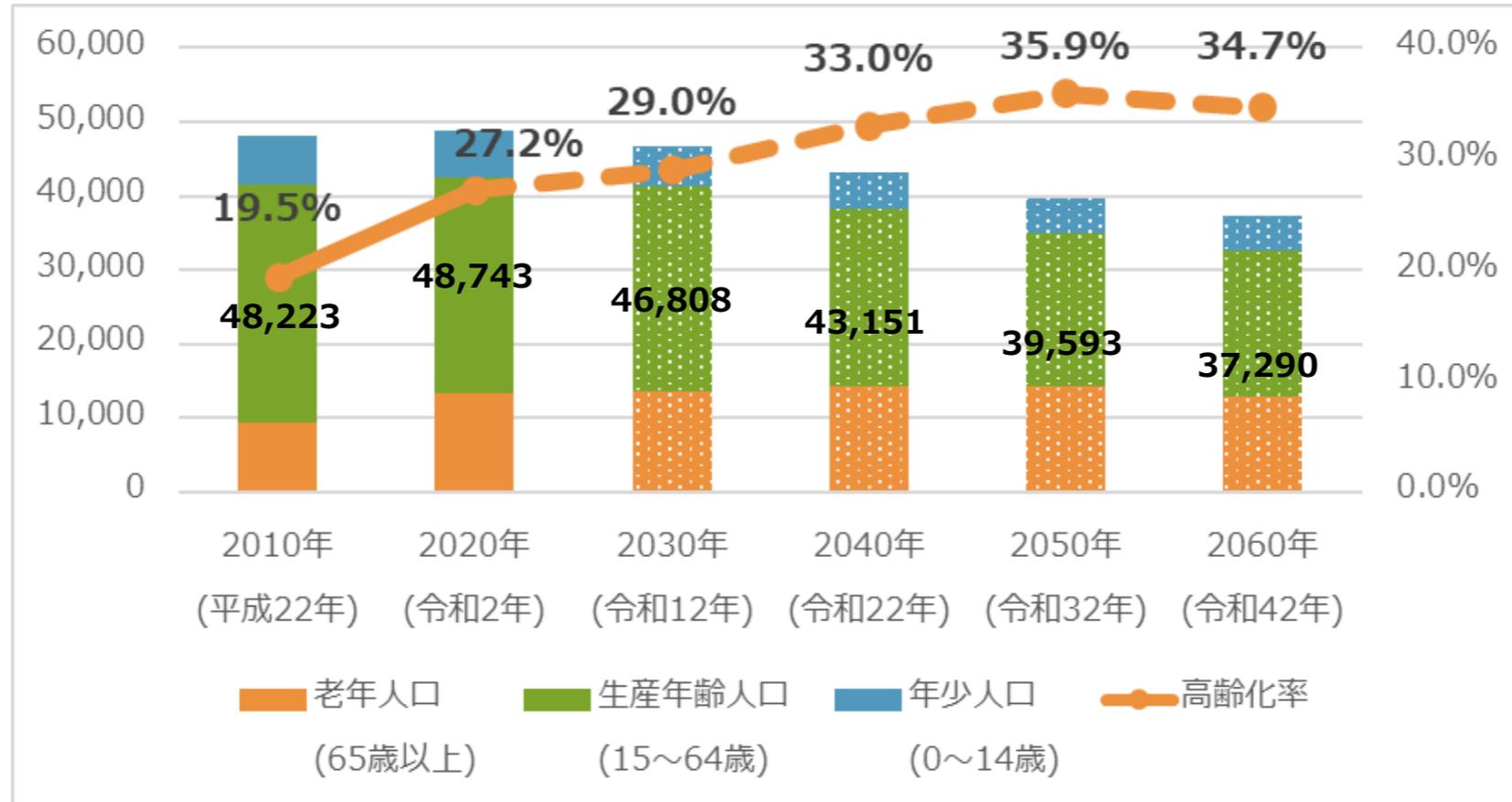
町民のこころ豊かな暮らしを実現するために（目的）

2040年までに実現する寒川町の将来像（目標）

「つながる力で 新化するまち」をつくるまでの3要素

①2040年における背景（課題：少子高齢化・人口減少の進行）

【参考】2020年から2060年までの人口推計（悪いシナリオ）



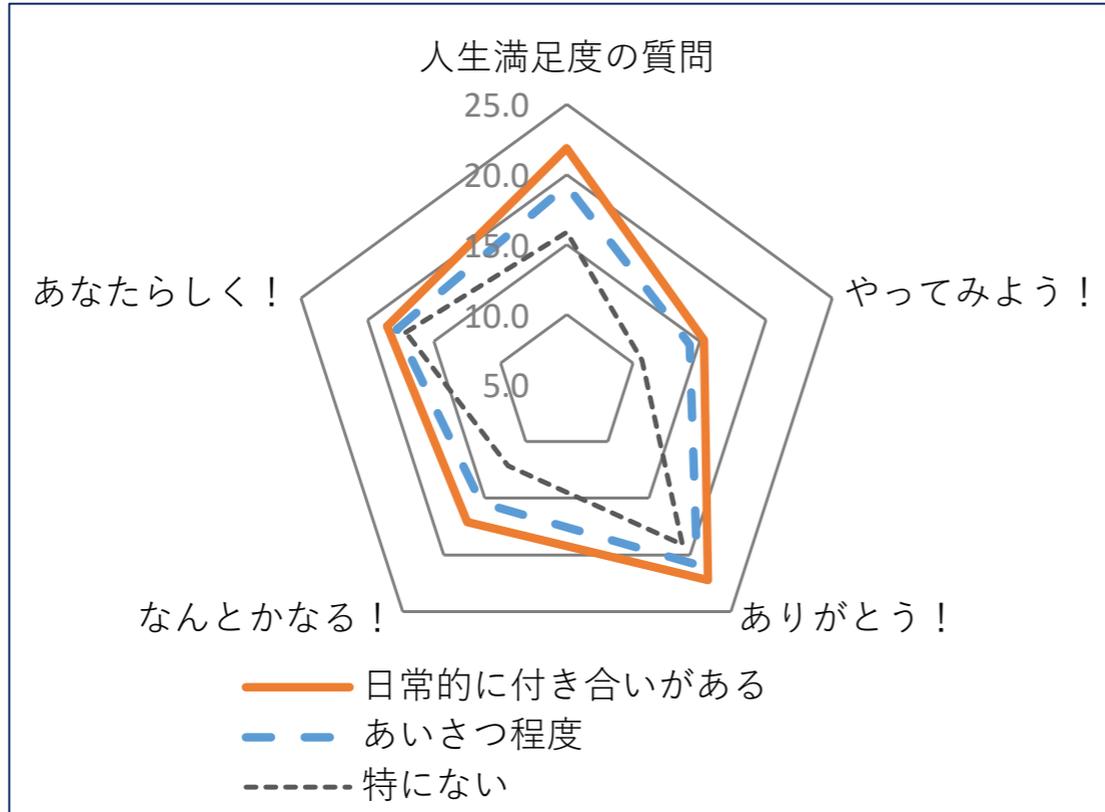
2020年から2040年の間で....

- ・人口は約11.4%減少
- ・高齢化率は5.8%上昇、年少人口は20.8%減少／生産年齢人口は18%減少

「つながる力で 新化するまち」をつくるまでの3要素

②課題を克服する手段（寒川の強み、町民性、幸福学の視点）

【参考】幸福度アンケート結果（ご近所付き合いの有無による比較）



幸福の感じ方を構成する4つの因子

- 「やってみよう！」因子（自己実現と成長）
- 「ありがとう！」因子（つながりと感謝）
- 「なんとかなる！」因子（前向きと楽観）
- 「あなたらしく！」因子（独立とマイペース）

寒川町の特徴（幸福学：統計的観点）

- ・ご近所付き合いなどの「ひとのつながり」を持つ人の方が統計的に幸福感が高い
- ・特に自己実現と成長を表す「やってみよう」の項目で大きな差が表れている

「つながる力で 新化するまち」をつくるまでの3要素

③町民と行ったワークショップ（みんなが望むこと）

総合計画策定のための町民ワークショップ（講演会）

令和元年8月から10月と令和2年1月にかけて計12回実施

- ・幸福学に関する講演会
- ・全体ワークショップ
- ・分野別ワークショップ
- ・地域別ワークショップ
- ・次期総合計画のための講演会

ワークショップでの主な意見（集約）

- ◆人がつながるきっかけ・居場所づくり
- ◆人のあたたかさを感じるまち
- ◆落ち着いたくらしができるまち
- ◆にぎわいのあるまち

ワークショップでは、将来の町に望むこととして、「ひとのつながり」や「あたたかさ」、「落ち着き」と「にぎわい」の同居したまちであることなどが挙げられました。



「つながる力で 新化するまち」とは



『つながる力』

寒川町の町民性・強みであり、同時に町民が将来に望む姿を表し、今後のまちづくりを進めていくための原動力としています。



『新化するまち』

将来的な課題を克服し、成長していく姿を表し、単なる「進化」ではなく新たなことにチャレンジしながらイノベーションを起こしていく姿を「新化」というキーワードに込めています。

アンケート調査の結果から、寒川町では「つながり」が「成長や自己実現」に効果的に寄与するという仮説を立てました。そこで、様々なヒト・モノ・コトと積極的に「つながる」ことで、様々な課題を克服し、これからの時代を切り開いていくことを目指して、「つながる力で 新化するまち」をまちの将来像としました。

ブランドスローガン「高座」のこころ。 用語・定義の再認識



「高座」

品格

高い志

誇り

いにしえから現代まで（町民の本質）

町民は、一人一人が穏やかで、心優しく、
その心のつながりを大切にしてきました

ブランドの核

「高座」という地名

「人のころ」

寒川町の町民性（強み）

寒川町は、町のブランドスローガン『「高座」のころ。』に表されるように、いにしえより穏やかさ、優しさ、あたたかさを町民性として受け継ぎ、心のつながりを大切にしてきました。

この心のつながりが寒川町の持つ強みと言えます。

- ブランド 差別化された「良い認知」
- 目的 選ばれるまちになる
- 目標 「良いまち」と認知される
- スローガン 「高座」のころ。



マーク

「高座郡」その名に品格と高い志を感じるこの地で
いにしえからさむかわの人々に受け継がれている
穏やかさ、優しさ、あたたかさが「高座」のころです。

- 方向性 マインドバリュー Notステイタスバリュー

まちの将来像「つながる力で 新化するまち」の確認

ブランドスローガン 「高座」のこころ。 用語・定義の再認識



これらを踏まえて

寒川町のマーケティングリサーチ / 寒川町の目指すべき方向性

【寒川町の分析】

3 C分析

企業のマーケティングにおいて、顧客（Customer）・競合（Competitor）・自社（Company）の観点から市場環境を分析し、経営戦略上の課題を導く手法。

STP分析

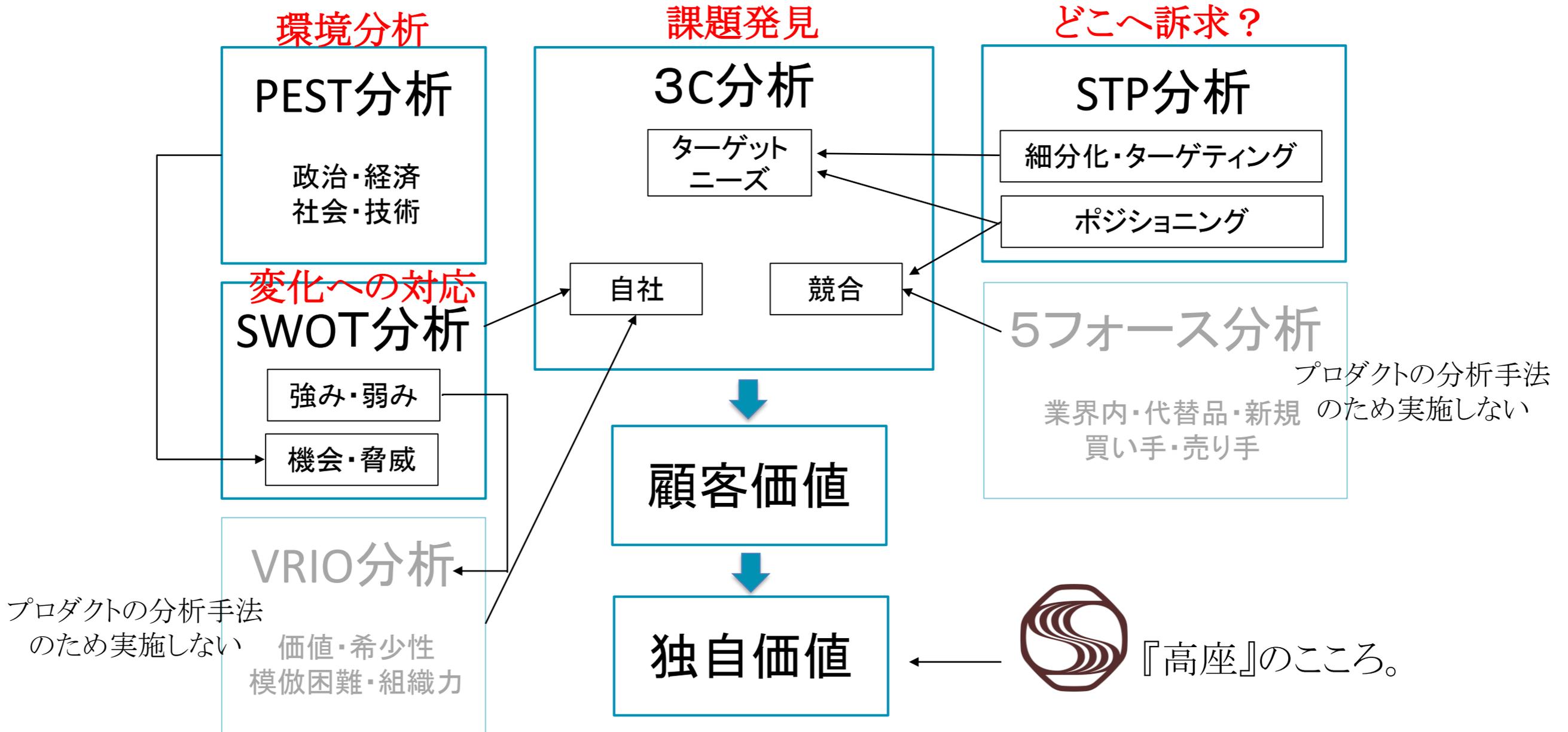
セグメンテーション（市場細分化、Segmentation）、ターゲティング（狙う市場の決定、Targeting）、ポジショニング（自社の立ち位置明確化、Positioning）を行う手法。

PEST分析

政治的（Political）、経済的（Economic）、社会文化的（Social-cultural）、技術的（Technological）。経営戦略における環境スキャニングで使用されるマクロ環境要因のフレームワーク。

SWOT分析

目標達成するために、意思決定を必要としている組織や個人の事業場の都合やプロジェクト計画などに関係する脅威について、外部環境や内部環境を強み（Strengths）・弱み（Weaknesses）・機会（Opportunities）・脅威（Threats）の4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法。



政治（国）

- 機会（長期）：Well-beingを重視した政策
- 機会（長期）：地方経済の回復による地方創生の推進
- 脅威（短期）：感染症から命と暮らしを守る

経済

- 機会（長期）：産業集積拠点としての田端西地区のまちづくり
- 機会（長期）：さがみロボット産業特区によるイノベーション創出
- 脅威（長期）：人口減少による地域経済の縮小
- 脅威（長期）：寒川町は商業消費は域外に流出している。
- 脅威（長期）：社会保障費の増

社会

- 機会（長期）：市街化区域への新たな住宅地開発の余地がある
- 脅威（長期）：人口減少社会の到来
- 脅威（長期）：高齢化が進む
- 脅威（長期）：高齢化や単身者の増による地域のつながりの希薄化
- 脅威（長期）：スマートフォンの普及などによる地域のつながりの希薄化
- 脅威（長期）：公共施設の老朽化

技術

- 機会（短期）：メタバースの普及
- 機会（短期）：5Gの普及

「強み」

- 製造業を中心に、安定した雇用の機会がある。
- 豊かな自然環境
- 町財政の健全性
- さがみ縦貫道路のインターチェンジが2か所あり、車による交通利便性が高い。

「機会」

- 寒川駅北口地区土地区画整理事業の進行に伴うまちの玄関口の魅力が高まった。
- さがみロボット産業特区によるイノベーション創出
- 市街化区域への新たな住宅地開発の余地
- 年間約200万人の参拝者が訪れる寒川神社
- 産業集積拠点としての田端西地区のまちづくり
- 都市未来拠点としての新幹線誘致周辺のまちづくり
- Well-beingを重視した国の政策
- 市街化区域への新たな住宅地開発の余地がある

「弱み」

- 10代後半から20代を中心に転出超過しており、多子世帯が増えづらい構造にある。
- 女性の働く環境を整えることが課題である。
- 首都圏にも関わらず、地方からの流入は乏しい。
- 商業や公園環境については近隣自治体と比較して、利便性の観点から見劣りする。
- 買物のしやすさや交通の利便性を求めて、町外へ転出している人が多い。
- 寒川町の認知度が低い。

「脅威」

- これまで続いていた人口増加が止まり、人口減少に転じることで、まちづくりの考え方の転換が必要。
- 高齢化が著しく進行する。
- 人口減少社会における自治体間競争の激化
- 地方経済の低迷による地方税の減収
- 増え続ける社会保障費
- 高齢化、単身者の増、デジタルの進化による地域での人のつなりの希薄化

寒川町の「SWOTクロス分析」

	<p>「機会」</p> <ul style="list-style-type: none"> 寒川駅北口地区土地区画整理事業の進行に伴うまちの玄関口の魅力が高まった。 さがみロボット産業特区によるイノベーション創出 市街化区域への新たな住宅地開発の余地 年間約200万人の参拝者が訪れる寒川神社 産業集積拠点としての田端西地区のまちづくり 都市未来拠点としての新幹線誘致周辺のみちづくり Well-beingを重視した国の政策 市街化区域への新たな住宅地開発の余地がある 	<p>「脅威」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで続けていた人口増加が止まり、人口減少に転じることで、まちづくりの考え方の転換が必要。 高齢化が著しく進行する。 人口減少社会における自治体間競争の激化 地方経済の低迷による地方税の減収 増え続ける社会保障費 高齢化、単身者の増、デジタルの進化による地域での人のつながりの希薄化
<p>「強み」</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業を中心に、安定した雇用の機会がある。 豊かな自然環境 町財政の健全性 さがみ縦貫道路のインターチェンジが2か所あり、車による交通利便性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 心豊かに暮らせる環境を生かしたWell-beingを重視したまちづくり (豊かな自然環境、安定した雇用、交通利便性、生活のしやすさ、町財政の健全性など) Well-beingを感じられる拠点の整備 寒川神社と連携したプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> 長期的視点を持った行財政運営 豊かな自然環境を生かした地域内外の人のつながりの強化
<p>「弱み」</p> <ul style="list-style-type: none"> 10代後半から20代を中心に転出超過しており、多子世帯が増えづらい構造にある。 首都圏にも関わらず、地方からの流入は乏しい。 商業や公園環境については近隣自治体と比較して、利便性の観点から見劣りする。 買物のしやすさや交通の利便性を求めて、町外へ転出している人が多い。 寒川町の認知度が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の働く環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業や公園環境の充実により、地域内外の人のつながりの強化

S_セグメント

- 自然的 / 都会的
- ゆっくり / 慌ただしい
- まじめ / 適当 / 不真面目
- 戸建多い / 建売多い / マンション多い
- 自信ない → **自信ある**
- 保守的 → **挑戦的**
- 生活圏狭い / 生活圏広い

○ 寒川町の現在の傾向

→ 現在の傾向を変えていきたい

- 自信を持ち、挑戦的になるためには、人とのつながりが重要となる。
- 町民はゆるやかなつながりを求めている。
- まじめであたたかな人とつながることで寒川町の魅力が伝わる。
- 「足りない」とは、つながりを求めている人だけでなく、つながりができることで自信を持ったり、挑戦できるようになる可能性がある人も含める。

T_ターゲット

- 社会との「つながり」が足りない人

P_ポジショニング

- ゆるやかなつながりがあるまち
 - そこから挑戦的に地域活性化を図る。
- ＝まちの将来像「つながる力で 新化するまち」

周辺自治体

- 大型ショッピングモールがある
- 複数のコンテンツを1つの施設で楽しめる
- 面積が大きい
- 都心への電車交通が便利

寒川町

- 大型ショッピングモールない
- 自然や農地が分散している
- 小売店や飲食店が分散している
- 複数のコンテンツを楽しむには移動が必要
- 面積が小さく町内移動はしやすい
- 都心への電車交通は不便
- 周辺自治体や圏央道への車交通は便利
- 町ブランドの推進

ニーズ

- 寒川町に住む人は自然好き
(だけど触れ合う機会が少ない)
- テレワークが浸透し東京からの移住者増
- 町民はゆるやかなつながりを求めている

目指す方向 (独自価値)

- 周辺自治体の大型施設を利用
(周辺自治体への交通利便性向上)
- 町は穏やかな生活 (人はやさしく、あたたかい)
- ゆるやかなつながりをつくる
- 強いつながりもつくり、新たな事業などを生み出す
- 「移動が不便」を「自然や歴史を感じながら快適に移動できる」に変える。
=居心地がよく歩きたくなるまちづくり
- 「高座」のころ。



寒川町のマーケティングリサーチ / 寒川町の目指すべき方向性

【寒川町の分析】



【寒川町の分析】を踏まえて

にぎわい交流創出ゾーンの分析から見た方向

【にぎわい交流創出ゾーンの分析】

にぎわい交流創出ゾーンの概要



※エリア範囲は確定していません。



●にぎわい交流創出ゾーン

さむかわ中央公園周辺は、寒川総合体育館、寒川町民センター、寒川総合図書館などの公共施設が集積しており、イベントなどが頻繁に開催され、多くの方々が交流を深めています。また、寒川神社は、かながわのまちなみ100選などに選ばれ、寒川町の歴史文化のシンボルとして多くの方々から親しまれています。さらに、町役場の隣接地には既存の公共施設を複合化した新たな複合施設の建設の検討を進めていることから、これらの特性を生かして、町内のにぎわいと町外との交流を創出することで、地域の活性化資源として活用する「にぎわい交流創出ゾーン」とします。

寒川町総合計画2040より

政治

- 機会（長期）：国が官民連携のまちづくりを進めている。
- 機会（長期）：国が滞在快適性等向上区域（まちなかウォークアブル区域）を進めている。
- 脅威（長期）：畑や田んぼの用途が限定されており、まちづくりの幅が狭い。

経済

- 機会（短期）：官民連携に関する補助金が制度として整備されている。
- 機会（短期）：まちなかウォークアブルに関する補助金が制度として整備されている。
- 機会（長期）：寒川神社参拝客年間約200万人が利用する施設やサービスをつくる余地がある。
- 機会（長期）：公共施設が老朽化しており、更新する際に効果的な官民連携による取組の可能性はある。

社会

- 機会（短期）：新型コロナウイルス感染症の拡大により、人口過密地域を避ける傾向にある。
大型ショッピングモールでの買い物からインターネットでの購入へ。
- 機会（短期）：新型コロナウイルス感染症の拡大により、マイクロツーリズムが流行っている。
- 機会（長期）：持続可能な社会への関心が高まっており、自然の豊かさの価値が高まっている。

技術

- 機会（長期）：自転車や電動キックボード（主に海外）のシェアが普及しはじめている。
- 機会（短期）：メタバースの普及、5Gの普及

SWOT分析

<p>強み【人が集まり,自然や歴史がある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が集まる施設が集約 ・町内外から車でアクセスしやすい ・自然が残っている ・歴史的施設がある 	<p>機会【施設設置の可能性はある】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場南側に施設建築が可能な土地がある。 ・中央公園西側に、施設設置の可能性のある土地がある。
<p>弱み【商業的魅力が低い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅から少し離れている ・相模線が単線 ・施設が分散しているため移動が必要 ・飲食店や小売店が少ない 	<p>脅威【施設更新が必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の老朽化 ・

SWOTクロス分析

	<p>機会 【施設設置の可能性はある】</p>	<p>脅威 【施設更新が必要】</p>
<p>強み 【人が集まる町の顔】 【自然や歴史がある】</p>	<p>自然や歴史を生かしつつ、ニーズのある施設を設置すれば、さらに人が集まる可能性が高い。</p>	<p>施設更新を活かし、ニーズのある施設設置を実施する。</p>
<p>弱み 【商業的魅力が低い】</p>	<p>施設設置する場合は、商業的な魅力を向上させることで、強みや機会を生かすことができる。</p>	<p>施設更新や民間施設設置の機会を活かし、商業的な魅力を向上させる。</p>

分析の結果

施設更新／設置を契機に自然や歴史を生かして、ゾーンに顧客ニーズのある機能を設置することで、ゾーンや町の魅力を向上させることができる。

■ ゾーンの特徴

- 自然や施設が集積しており、人が集まる町の顔
- 商業的な魅力が低いが、公共施設の更新／設置に合わせ、ニーズに合う機能を設置することでゾーンや町全体の価値を向上することができる。

■ 社会とのつながりが足りない人のニーズ

- ゆるやかにつながる機会（所属するつながりだけでなく、接続するつながりも）
- 自分らしくいられる空間（ダイバーシティ）
- 自己実現（社会への帰属）

■ 目指す方向（独自価値）

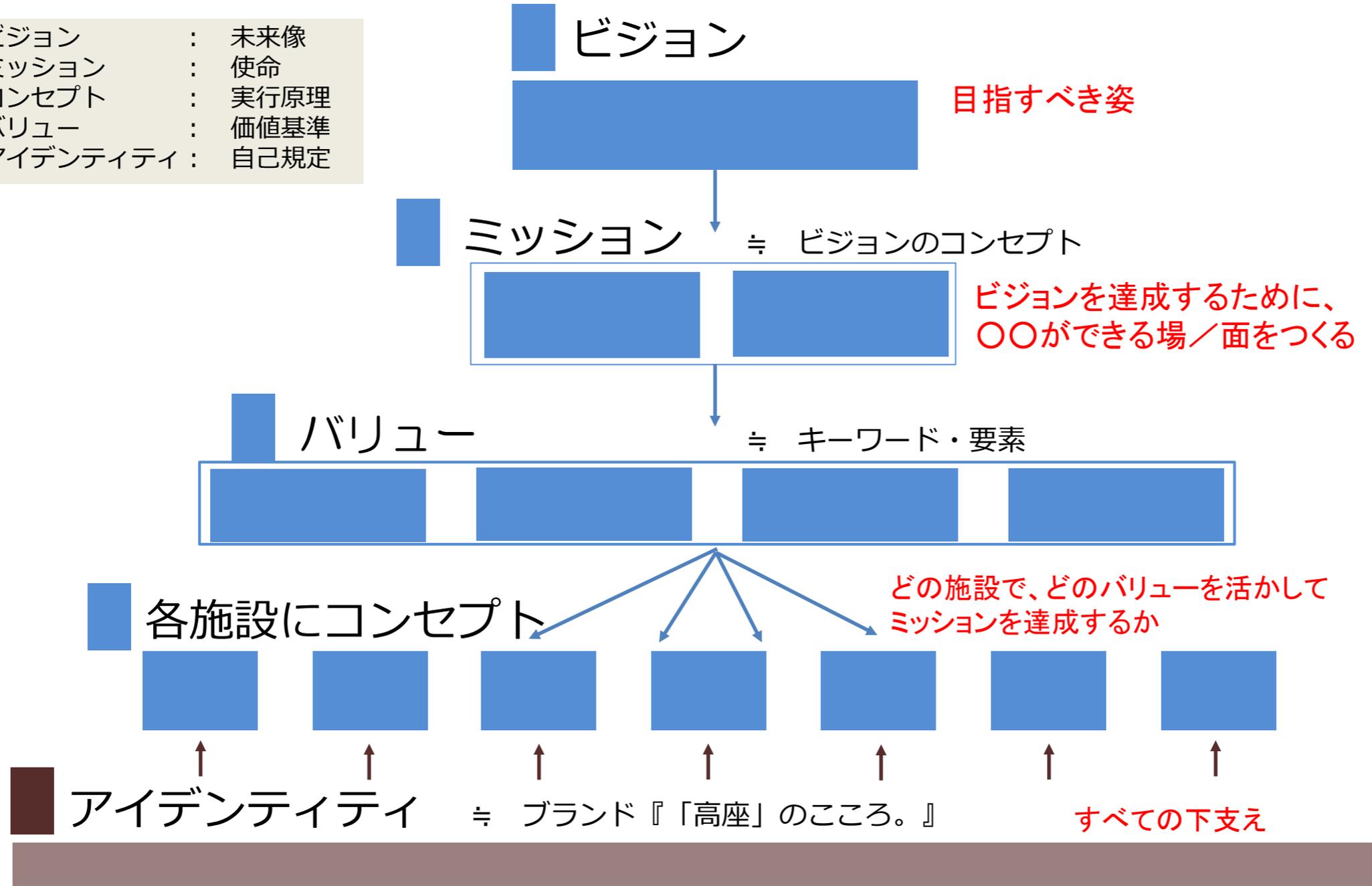
- 多様な人がゆるやかにつながり、自己実現ができる場

にぎわい交流創出ゾーンのビジョン全体像の作成工程

ゾーンのビジョン全体像 (案)

ビジョンとは、「将来のあるべき姿を描いたもの、見通し、追及する理想、目指す方向性」
コンセプトとは、「ビジョンを実現する具体的構想、プロジェクトのあり方」

ビジョン	: 未来像
ミッション	: 使命
コンセプト	: 実行原理
バリュー	: 価値基準
アイデンティティ	: 自己規定



ゾーンのビジョン全体像 (仮)

ビジョンとは、「将来のあるべき姿を描いたもの、見通し、追及する理想、目指す方向性」
 コンセプトとは、「ビジョンを実現する具体的構想、プロジェクトのあり方」

- ビジョン : 未来像
- ミッション : 使命
- コンセプト : 実行原理
- バリュー : 価値基準
- アイデンティティ : 自己規定

■ ビジョン

多様な人がゆるやかにつながる
 きっかけと過ごしたくなる場

《Viewpoints》

「パブリックスペース」に
 いか「パーソナルスペース」をつくるか

■ ミッション

つながる機会

多世代交流

町民の
 自己実現

※「パーソナルスペース」
 個人・家族・グループ・団体等が
 自由に占有できる場

ビジョンを達成するために、
 ○○ができる場/面をつくる

■ バリュー ≡ キーワード・要素

町民 = 町内の住民、労働者、学生、
 町内で活動する企業、団体

ゾーン内の
 他施設と連携

自然を感じる
 場所/空間

交流の場
 ソフト/ハード

居心地の良い

町民の自己実
 現のサポート

■ 各施設にコンセプト

どの施設で、どのバリューを活かして
 ミッションを達成するか

■ アイデンティティ ≡ ブランド『「高座」のころ。』

すべての下支え

「穏やかさ、暖かさ、やさしさ」を感じてもらう = 「安心」を感じてもらうための気配りや気遣いなど

機会

ソフト

- 自由、強制されない
- 遊び心がある
- BGMが流れている
- 体験教室
- 気軽に集い、相談ができる

居心地

交流

- 目的がなくても来たくなる
- 気軽に相談ができる
- 必要な情報が収集できる
- 情報発信場所
- ワンストップ窓口
- 悩みを共有できる

コミュニティ

空間

- メリハリ導線
- チャレンジできる
- 笑顔が自然とでる
- わかりやすい
- 健康でいられる
- 多様な人に対応できる

からだ

こころ

ハード

- 自然に触れあえる
- キッチンカーが集う場
- お祭り、イベント空間
- 安全、安心な場所
- 動く歩道、屋内施設
- 寒川町を感じられる空間
- 子どもが楽しめる
- 親がリフレッシュできる場

自然

機能

ビジネス

- 子どもが遊べる
- 会議室、フリースペース
- 交流空間、ホール
- 民間の人と交流できる
- 便利、静かな空間
- 町民ギャラリー

居場所

- シェアオフィス、自習室
- 1日、過ごせる場所
- 飲食、勉強ができる
- くつろぎ空間、居心地が良い
- カフェスペース
- 飲食店、買い物ができる
- 親子でおしゃべり、読書のできるスペース

癒し・くつろぎ

バリューを出す ≡ キーワード・要素



バリューを整理する

- ・特徴を一言で表す「キーワード」、共通の要素で「グルーピング」、「レベル感」を揃える・分ける

想定する施設との親和性確認

- ・整理したバリューの中から、どれを重視（特に採用）するのか選択
- ・施設の必須要件やニーズと照らしながら

想定する施設の要件（機能要件）を設定

- ・重視するバリューと施設の必須要件・ニーズを合体 ⇒ コンセプト ⇒ 施設いる？いない？
- ・施設いるなら ⇒ PPPを想定した要件設定

ビジョン作成&確定

ゾーンのビジョン全体像作成に向けた必要な機能
などのフレームワーク

■ キーワード

- ・ 検討チームで、にぎわい交流創出ゾーンに、『町に足りないもの』・『欲しい場所』・『必要なしくみ』の意見出し（ブラッシュアップ）を行う



【ブラッシュアップから見えた「にぎわい交流創出ゾーン」に求められること】

- ・ 幅広い世代の『ヒト・モノ・情報・交流』の場を創出し、ひとが集い、交流することで、にぎわいを創出するキーワード（『町に足りないもの』・『欲しい場所』・『必要なしくみ』）を「グルーピング」、「レベル感」で揃える・分ける

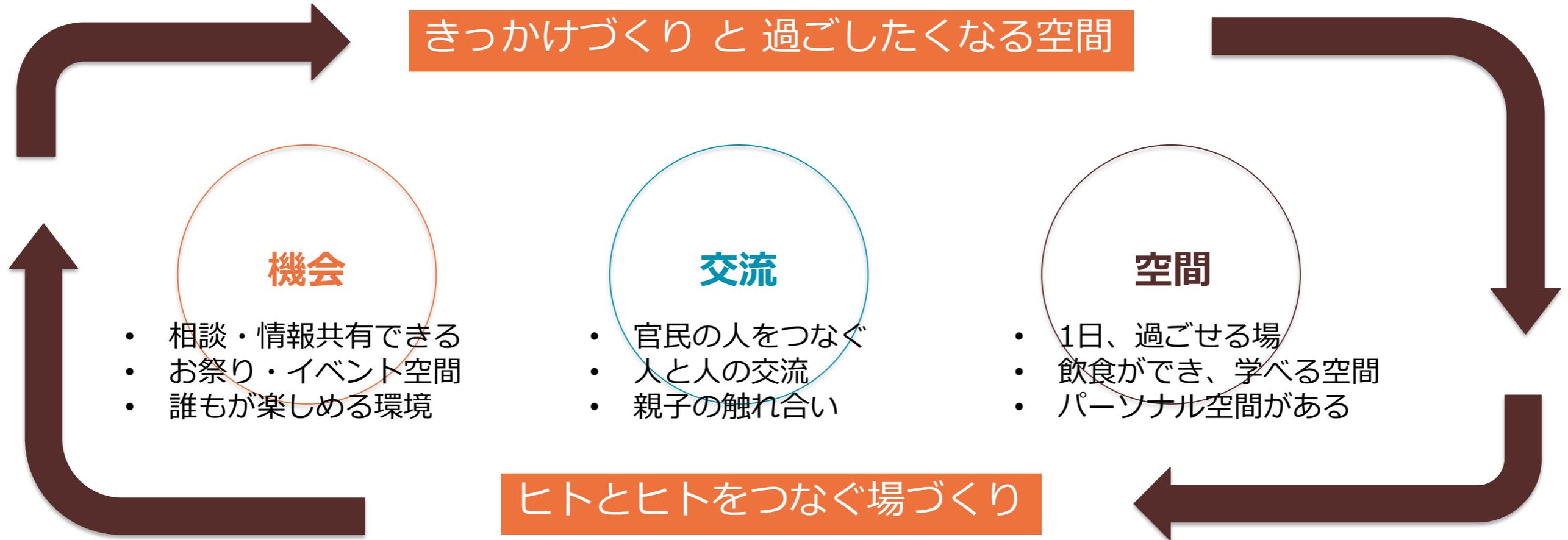


■ 「あったらいいな」・「過ごしたくなる場」とは

- ・ 幅広い世代が交流できるスペース、自由に利用できる空間、カフェやお店があり、一日を過ごせる場
- ・ 民間の人と交流ができ、チャレンジできる場
- ・ 「やってみよう！」因子を広げ、（寒川らしい）ちょうどよく、つながり、心地よい空間

《Viewpoints》 「パブリックスペース」にいか「パーソナルスペース」をつくるか

■ 人と人の距離感が程よく、自然と人が集まる心地よい空間・場づくり



■ 過ごしたくなる空間【にぎわい】で、ヒト・モノ・コトがつながる【交流創出】空間【ゾーン】をつくる

バリューを整理する

- ・特徴を一言で表す「キーワード」、共通の要素で「グルーピング」、「レベル感」を揃える・分ける
- ・バリューの洗い出しから見えた求められる機能 → 「機会」・「交流」・「空間」

人が集まる空間に必要なキーワード

- ・「学ぶ」、「人と人を結ぶ（交流）」、「子育て支援」、「癒し」、「楽しさ」を要素に



バリューを出す ≡ キーワード・要素

ゾーン内の
他施設と連携

自然を感じる
場所/空間

憩いの空間
ソフト/ハード

交流の場
ソフト/ハード

居心地の良い

楽しむ機会
の創出

パーソナルスペース
の提供

町民の自己実
現のサポート



バリューで示された「コンテンツ」で、既存施設との親和性を確認

ビジョンに求められるキーワード（要素）と既存施設との親和性確認

バリューで示された「コンテンツ」で、既存施設との親和性の確認作業

にぎわい交流創出ゾーン内の既存施設

- ・ オフィス → 庁舎（町役場）、商工会、給食センター、企業庁浄水場、観光協会
- ・ スポーツ → 寒川総合体育館、町営プール、町営庭球場
- ・ 公園 → さむかわ中央公園、川とのふれあい公園
- ・ 交通施設 → JR 2 駅（寒川駅・宮山駅）
- ・ 福祉施設 → 寒川病院、神恵苑、
- ・ その他 → 寒川神社、参道、少年館、寒川郵便局、水道記念館、相模川、目久尻川

バリューを出す ≡ キーワード・要素

ゾーン内の
他施設と連携

自然を感じる
場所/空間

憩いの空間
ソフト/ハード

交流の場
ソフト/ハード

居心地の良い

楽しむ機会
の創出

パーソナルスペース
の提供

町民の自己実
現のサポート

■ バリューで示された「コンテンツ」で、既存施設との親和性の確認作業

バリューを出す ≡ キーワード・要素

子育て支援の場 遊ぶ/憩い/結ぶ	自然を感じられる 場所/空間	憩いの空間 ソフト/ハード	交流の場 ソフト/ハード	学習・フリースペース の提供	町民の自己実現 のサポート	町の顔となる 拠り所	楽しむ機会 の創出

マーケティングの視点を取り入れて、町やにぎわい交流創出ゾーンの分析から

町のポジショニング / ニーズ / 目指す方向 を導き出しました。

引き続き、にぎわい交流創出ゾーンのビジョン作成 / 整備手法選択のための指針づくり / 健康管理センターの老朽化対策 に向けて、計画的に取り組んでいきます。

今後もマーケティング会議で検討を進めながら、一定の方向性を導き出していきます。